

WATCH BOOT
light
RPC-M5CS

詳細版

■ 取扱説明書 ■

明京電機株式会社

ご購入ありがとうございます

弊社リブーター WATCH BOOT light RPC-M5CSをご購入いただきありがとうございます。

WATCH BOOT light RPC-M5CSはネットワーク経由でシステム機器の制御／管理をする遠隔自動電源制御装置です。4個の100VAC電源を個別に遠隔制御／管理できます。接続する機器に関しては「安全上のご注意」をご確認ください。

また、NTPサーバーに接続することにより、週間スケジューラーとしてもご利用になれます。

WATCH BOOT light RPC-M5CSが皆様の所有されるネットワークシステムにおいて有効かつ有用なツールとして機能することを願っております。

この取扱説明書を必ずお読みください。

本書はセットアップ手順と、操作、設置、安全の確保などのための手順が記載されています。

ご使用前に、必ず本書をお読みください。

付属品一覧

本製品には次の付属品が同梱されています。必ずご確認ください。

1. セットアップガイド 兼 保証書
2. 2P/3P変換プラグ

当社ホームページ(<https://www.meikyo.co.jp/download/>)に、運用に便利なソフト等がありますのでダウンロードしてご利用ください。

1. 取扱説明書(詳細版) PDFファイル(本書)
2. RPCサーチソフト
3. ネットワーク稼動監視ソフト
4. プライベートMIBファイル

安全上のご注意

この取扱説明書での表示では、本装置を安全に正しくお使いいただくために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は以下のようになっています。本文をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、正しくご使用ください。

注意喚起シンボルとシグナル表示の例

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び物的損害*の発生が想定される内容を示しています。

※物的損害とは家屋家財および家畜ペットにかかわる拡大損害を示します。

図記号の例

 分解・改造禁止	⊘は、禁止(してはいけないこと)を示します。具体的な禁止内容は ⊘の中や近くに絵や文章で示します。左図の場合は「分解・改造の禁止」を示します。
 電源プラグを抜く	●は、強制(必ずすること)を示します。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示します。左図の場合は「差し込みプラグをコンセントから抜くこと」を示します。



警告

●万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く！

煙、変な音、においがするなど、異常状態のまま使用しないでください。火災や感電の原因となります。このようなときは、すぐに電源プラグを抜いてお買い上げの販売店や弊社にお問い合わせください。



電源プラグを抜く

●AC100V(50または60Hz)以外の電源電圧では使用しない

表示された電源電圧(交流100V)以外の電圧で使用しないでください。特に110Vを越える電圧では製品を破壊するおそれがあり、火災の原因となりますので、絶対に接続しないでください。



交流100V

●本装置の電源アースあるいはFG端子を接地する

本装置の電源プラグのアースあるいはFG端子を接地してください。感電や故障の原因となります。



アース接地

●本装置後面のACコンセントは15Aまで

本装置後面のACコンセントは、供給できる容量の合計は最大で15Aです。合計15Aを越えて使用しないでください。火災や故障の原因となります。



最大容量15Aまで

●たこ足配線をしない

本装置の電源は、家庭用電源コンセントから直接取ってください。本装置のACコンセントに、電源用テーブルタップなどを接続して使用しないでください。火災や故障の原因となります。



たこ足配線禁止

●電源コードを大切に

コードに重いものを載せたり、熱器具に近づけたりしないでください。コードが損傷し火災や感電、故障の原因となります。また、コードを加工したり無理に曲げたり引っ張ったりすることも、火災や感電の原因となるのでおやめください。コードが傷んだ場合はお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



コードを乱暴に扱わない

●極めて高い信頼性や安全性が必要とされる機器に接続しない

本装置はパソコン及びパソコン周辺機器と接続する用途に設計されています。人命に直接関わる医療機器などの極めて高い信頼性または安全性が必要とされる機器には接続しないでください。



パソコン機器専用

●ぬれた手で本装置や電源プラグにさわらない

ぬれた手で本装置の操作を行なわないでください。ぬれた手で電源プラグを抜いたり、差し込んだりしないでください。感電の原因となることがあります



ぬれた手でさわらない

●本装置の上や近くに水などの液体を置かない

本装置に水などの液体が入った場合、火災、感電、故障などの原因になります。



液体を近くに置かない

●異物を入れない

製品に、金属類や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。

万一異物が入った場合はすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



内部に異物を入れない

●ヘアースプレーなどの可燃物を本装置の上や近くに置いたり、使用したりしない

スイッチの火花などで引火して火災の原因になることがあります。



可燃物禁止

●雷が鳴り出したら製品や電源プラグに触れない

感電の原因となります。本装置には、落雷用保護回路がありますが、FG端子を接地して、アースされた状態でないと十分な効果を発揮しませんのでご注意ください。



雷のときは、触れない

●分解したり改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、カバーをはずして内部の部品に触ったり、製品を改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。



分解・改造禁止

●製品を落したりして破損した場合は

そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、前面のコネクタをすべて抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までお問い合わせください。



電源プラグを抜く

●火災・感電・事故・傷害の発生する危険がある機器は、遠隔制御機能を利用しない

遠隔制御機能を利用する場合は、遠隔操作での突然の稼働により火災・感電・事故・傷害の発生する危険がある機器は接続しないでください。特に、電気ストーブや電熱器など熱を発生するものは、火災の原因となりますので絶対に接続しないでください。接続機器が突然動作した時に接続された機器の近傍にいる人が危険になるような機器を接続しないでください。また、接続される機器の安全性に関しては、接続される機器のUSB等のアウトレットにも遠隔操作によって危険がないことを確認して下さい。

本機に接続される機器は、必ず、本機の近傍にあり、本機の近傍にいる人が危険を感じた場合、機器の電源プラグを容易に外せるようにしてください。



遠隔制御禁止

注意

●電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。
コードを引っ張って抜くと傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。



コードを引っ張らない

●風通しの悪いところに置かない

製品を密閉された場所に置かないでください。熱がこもり、やけどや火災、故障の原因となることがあります。



風通しの悪い場所禁止

●温度が高くなるところに置かない

直射日光の当たるところや熱器具の近くなど、高温になるところに置かないでください。やけどや火災、故障の原因となることがあります。



温度が高い場所禁止

●お手入れのときは

本装置の本体が汚れた場合は、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ、よく絞ってから軽く拭いてください(絶対に、電源プラグやコネクタなどの接続部をこの方法で拭かないでください)。薬品類(ベンジン・シンナーなど)は使わないでください。変質・変色する場合があります。本体に接続されている電源プラグやコネクタなどの接続部のお手入れは、電源プラグやコネクタを抜いて、機器を傷つけないよう軽く乾拭きしてください。いずれの場合も、必ず本装置の電源プラグをコンセントから抜き、本装置に接続されている電源プラグやコネクタ類も全て抜いてから行なってください。感電や故障の原因となることがあります。



電源プラグを
抜く

●湿気やほこりの多いところに置かない

湿気やほこりの多い場所や調理台、加湿器の近くなど、油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。



湿気・ほこり禁止

●逆さまに設置しない

本装置を逆さまに設置しないでください。また、布等でのくんだ状態での使用もおやめください。特に、ビニールやゴム製品が接触している状態での使用はおやめください。火災や故障の原因となることがあります。



逆さま禁止

●電源プラグとコンセントの定期点検を

電源プラグとコンセントは長時間つないだまましていると、ほこりやちりがたまり、そのままの状態で使用を続けると、火災や感電の原因となることがあります。定期的な清掃をし、接触不良などを点検してください。



定期点検

●接続できるものについて

本装置はパソコンや周辺機器、通信機器などの接続を主として設計されており、他の負荷機器に関しては、遠隔操作に伴う危険源がない又はリスク低減策を講じることに
より遠隔操作に伴う危険源がない負荷機器に限定されています。



接続する負荷機器

●DIPスイッチの操作に金属製のもの、鋭利なものを使用しない

DIPスイッチのレバーを操作する時には、先端が丸みのある柔らかい木製のものを使用してください。硬い金属製のもの、鋭利なものを使用すると、レバーを破損してしまったり、接点部の接触に支障をきたしてしまったりする恐れがあります。



DIPスイッチ操作

●本装置は日本国内のみで使用

国外での使用は、電源電圧などの問題により、本装置が故障することがあります。



国内のみ使用

●不安定な場所やお子様の手の届く所には置かない

ぐらついた台や本装置より面積が小さいものの上や傾いた所、また衝撃や振動の加わる所など、不安定な場所やお子様の手の届く所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがや故障の原因となります。



不安定な場所禁止

●ラジオやテレビなどのすぐ近くに置かない

ラジオやテレビなどのすぐ近くに置きますと受信障害を与えることがあります。



ラジオ、テレビの近く禁止

●データの保存について

データの通信を行なう際には、あらかじめデータのバックアップを取るなどの処置を行なってください。回線や本装置の障害によりデータを消失するおそれがあります。



バックアップ

●花びんやコップ、植木鉢、小さな金属物などを本装置の上に置かない

内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。万一、水などが内部に入ったときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。



上にものを置かない

●踏み台にしない

本装置の上に乗らないでください。
倒れたりしてけがや故障の原因となることがあります。



踏み台禁止

目次

安全上のご注意.....	3
目次.....	8
第1章 はじめに.....	10
1. 機能概要.....	11
2. 各部の名称と機能.....	12
3. DIPスイッチの設定.....	13
4. LED表示について.....	14
第2章 設置・取付.....	15
1. 設置・取付.....	16
2. ラックへの取付.....	16
3. 固定方法.....	16
第3章 初期設定.....	17
1. 初期設定.....	18
2. 初期化の方法.....	21
3. 一斉電源制御受付.....	22
[1] 受付状態設定方法.....	22
[2] 受付状態解除方法.....	23
第4章 WEBブラウザでの設定, 制御.....	24
1. ログイン.....	25
[1] IPアドレスを固定にして利用する場合.....	25
[2] RPCサーチソフトを利用する場合.....	27
2. 設定項目.....	28
[0] 入力可能な半角文字について.....	28
[1] 基本設定.....	28
[2] 通信設定.....	44
[3] 監視設定.....	53
[4] スケジュール設定.....	65
[5] システム情報.....	67
[6] PING送信.....	70
[7] 簡易説明.....	71
3. 状態表示項目.....	72
[1] 簡易情報表示.....	72
[2] 監視状態表示.....	73
[3] イベントログ表示.....	75
4. 電源制御.....	76
[1] 電源制御.....	76
[2] 仮想アウトレット制御.....	77
[3] 一斉電源制御.....	78
5. CPUリセット.....	79
第5章 その他の設定.....	80
1. TELNETによる設定.....	81
[1] 設定方法.....	81

[2] TELNETコマンドによる設定	82
2. ターミナルソフトによる設定.....	83
第6章 その他の制御	84
1. TELNET接続による制御.....	85
[1] TELNET接続による制御	85
2. シリアルからの制御	86
3. モデムからの制御.....	87
4. メールからの制御.....	88
5. WEBコマンドからの制御.....	89
第7章 ログ機能.....	90
1. ログ機能の設定・表示.....	91
第8章 シャットダウンスクリプト.....	94
1. スクリプト仕様について.....	95
[1] スクリプト実行機能の基本動作	95
[2] 設定.....	96
[3] ログ.....	96
[4] テキスト仕様.....	96
[5] エラー処理.....	98
[6] PING確認について	98
第9章 SNMPについて.....	100
1. SNMPについて	101
2. 機器設定	101
3. MIBについて	103
第10章 ネットワーク稼働監視.....	104
1. 機器設定.....	105
2. RPC EYE V4の利用.....	106
第11章 仕様一覧	107
■変数一覧表	108
■ロガー一覧表.....	115
■制御コマンド一覧表.....	116
■仕様一覧表	119

第1章
はじめに

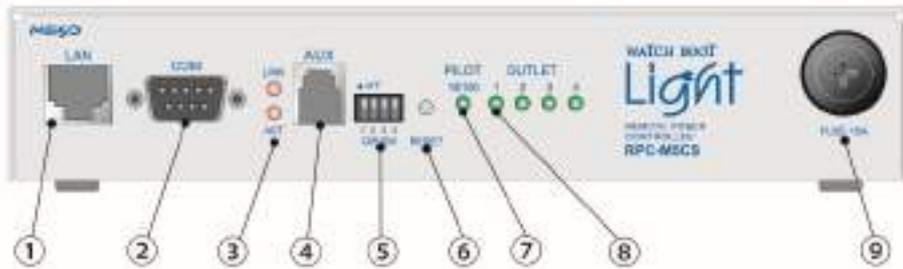
1. 機能概要

本装置には以下の機能があります。

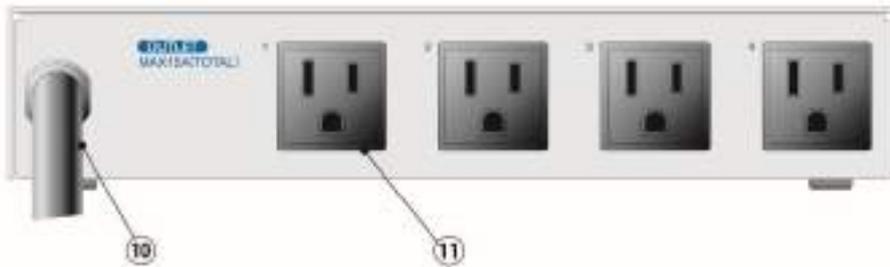
- 1) 4個の100VAC電源を個別に制御/管理
- 2) 通信による電源制御
 - ・WEBからの電源制御と設定
 - ・TELNETからの電源制御と設定
- 3) シリアルからの電源制御と設定
- 4) スケジュールによる制御
 - ・週間スケジュールによる電源制御
- 5) 監視機能
 - ・電源状態の監視
 - ・ICMPによる死活監視(PING監視)
 - ・ハートビートによる監視
 - ・温度状態の監視
(要オプション:RP-TS003)
- 6) 各デバイスへの遅延電源投入
 - ・本体電源投入時に、指定した順番、タイミングによる各デバイスの起動
- 7) メールによる制御や通知
- 8) センター通知機能
 - ・電源状態と死活監視状態をセンターへ通知
 - ・(MSRP)RPC EYE V4対応
- 9) SNMPエージェント機能
- 10) 通信による遠隔バージョンアップ
- 11) 通信中継機能(TELNET通信)
 - ・TELNETクライアント、シリアルコンソールとして通信
- 12) マジックパケットによる起動
- 13) スクリプト通信によるOSのシャットダウン

2. 各部の名称と機能

フロントパネル



リヤパネル



① LAN	LANケーブル(8ピンRJ45)を接続します。
② COM	シリアル接続用通信ポートとして使用します。
③ LED(LINK, ACT)	通信状態を表示します。
④ AUX	温度センサーを接続します。
⑤ DIPスイッチ	運用や初期化など各種モードの切替に使用します。
⑥ RESETスイッチ	出力電源へ影響を与えずにCPUを初期化します。
⑦ PILOT LED	本体に電源が投入されている場合に点灯します。
⑧ OUTLET LED	ACアウトレットの電源出力状態を表示します。
⑨ FUSE	ガラス管ヒューズ15Aを使用します。
⑩ 電源コード	商用電源, UPSなどに接続します。
⑪ ACアウトレット	デバイスの電源コードを接続します。

3. DIPスイッチの設定

DIPスイッチの機能(OFFは「上」、ONは「下」を意味します。)

NO.	状態	モード
1	OFF	運転モード
	ON	中継機能専用モード, 初期化
2	OFF	運転モード
	ON	中継機能専用モード
3	OFF	運転モード
	ON	メンテナンスモード, 初期化
4	OFF	OFFに固定
	ON	未使用

DIPスイッチの設定

		1	2	3	4
通常運転時	OFF	■	■	■	■
	ON				
初期設定時	OFF	■	■		■
	ON			■	
初期化時	OFF		■		■
	ON	■		■	
中継機能専用モード	OFF			■	■
	ON	■	■		

* 中継機能専用モードでは、シリアルからのコマンドを受け付けなくなります。

注意

DIPスイッチのレバーを操作する時には、金属製のものや鋭利なものを使用せず、先端が丸みを帯びている木製のものを使用してください。

DIPスイッチを操作するときは、本体のACアウトレットから全デバイスを取り外してください。

DIPスイッチ操作また設定終了後は、必ず、本体前面のRESETスイッチを押してください。誤動作する恐れがあります。

初期設定は、「第3章 初期設定」の「初期化の方法」を参照にして設定してください。

4. LED表示について

本体には3種類のLEDが装備されています。

1) LINK, ACT LED

CPUの通信状態を表示します。

LED	用途	状態	表示
LINK	CPU状態	ケーブル抜け	0.25秒点灯, 0.25秒消灯
		LAN正常リンク	1秒点灯, 1秒消灯
ACT	通信状態	パケット受信時	点灯
		パケット未受信時	消灯

2) PILOT LED

本体に電源投入されている場合、オレンジが点灯します。

本体に電源投入され、100BASE-TXリンク時にはグリーンが点灯します。

全アウトレットの死活監視リポート回数の合計が設定値を越えたら赤が点灯します。

(初期値は12回)

メール受信サーバーへのアクセスエラー時は、赤色2秒点灯→0.25秒消灯→2秒点灯します。

3) OUTLET LED

① ACアウトレットの電源出力状態を表示します。

ON の場合 : 点灯

OFFの場合 : 消灯

② OFF遅延中, 1秒点滅

③ PING監視・メールサーバー監視

1. [動作]が「リポート」または「ログのみ」の場合

(ア) 監視異常中(出力ON)は、2秒点灯→0.25秒消灯→2秒点灯

(イ) 監視スタート後、全てのPING監視対象から応答を確認するまでの間、1秒点灯→0.25秒消灯を繰り返し、その後点灯します。(出力はON)

2. [動作]が「ON」の場合

(ア) 監視異常中(出力ON)は、2秒点灯→0.25秒消灯→2秒点灯

(イ) 監視スタート後、全てのPING監視対象から応答を確認するまでの間、1秒消灯→0.25秒点灯を繰り返し、その後消灯します。(出力はOFF)

3. [動作]が「OFF」の場合

(ア) 監視スタート後、全てのPING監視対象から応答を確認するまでの間、1秒点灯→0.25秒消灯を繰り返し、その後点灯します。(出力はON)

PING監視, メールサーバー監視の[動作], 「ON」「OFF」の設定はブラウザからは行えません。

変数[debOlWdogAction]を直接変更する必要があります。

第2章 設置・取付

1. 設置・取付

以下の手順で設置します。

- 1) 本体を設置場所に置きます。設置場所は、単相100VAC/15A以上のコンセントに直接差し込める場所で本体背面に電源プラグが差し込める位置であることを確認します。
- 2) 本体前面のLAN用コネクタにLANケーブルを接続します。
- 3) 本体の電源コードをコンセントに接続します。

注意 本装置を逆さまに設置しないでください。火災や故障の原因となることがあります。

2. ラックへの取付

以下の手順でラックに取り付けます。

- 1) ラック・キャビネットにプレートを取り付けます。
プレートはラックサイズに合った一般市販品をご用意ください。
- 2) ラック・キャビネットに本装置を設置します。
- 3) 本体前面LAN用コネクタにLANケーブルを接続します。
- 4) 電源コードをコンセントに接続します。

3. 固定方法

本装置固定のため設置用の穴があります。

底面についている設置用の穴(4箇所)を利用して機器を固定します。
取り付け用のねじは、M 3×8 L(MAX)をご利用ください。

注意 壁面に取り付ける場合は、オプションの取付金具ATT02が便利です。
オプション:取付金具(ATT02)標準価格 3,000円(税抜)

第3章 初期設定

1. 初期設定

使用条件の確認と同意

本製品の使用にあたっては、初めに使用条件に同意していただく必要があります。

外部のネットワークから接続するために固定のIPアドレスを設定します。

設定用PCと本装置とは、LAN用コネクタにLANケーブルで接続します。
(PCと直接接続する場合は、クロスLANケーブルになります)

1) LANやVPN上に192.168.10.1および2のIPアドレスを持つホストがないことを確認します。

2) 設定用PCのIPアドレスとサブネットマスクを以下の通り設定します。

IPアドレス : 192.168.10.2
サブネットマスク : 255.255.255.0

3) 本体前面のDIPスイッチ3をONにします。

(メンテナンスモードになり、IPアドレスが192.168.10.1となります。)

注意	メンテナンスモードの場合、LANの通信速度は10BASE-Tでつながる設定になっている必要があります。
----	---

4) 本体前面のRESETスイッチを押します。

5) 設定用PCのWebブラウザを起動します。

http://192.168.10.1を指定し、本装置にアクセスします。

注意	ブラウザはJavaScriptとフレームに対応している必要があります。 推奨ブラウザは弊社HP「よくある質問」の「ブラウザにはどれを使用すればいいですか?」をご覧ください。
----	---

<https://www.meikyo.co.jp/faq/>

6) ブラウザ依存のポップアップ画面が表示されます。
ユーザー名(デフォルト:admin)とパスワード(デフォルト:magic)を入力します。



7)「ご確認のお願い」の画面が表示されます。内容を確認の上「上記の内容に同意します。」をチェックし「次へ」をクリックします。

ご確認のお願い

以下の文面をお読みになり、同意される場合のみ、遠隔制御機能を有効化できます。

RPC-M5CS

電気用品安全法により、遠隔操作に伴い感電・事故・傷害の発生する危険がある機器の遠隔操作は禁じられています。したがって、電気用品の中には、遠隔制御により感電、火災及び障害の生じる可能性があるものがありますので、そのような機器を、本装置のアウトレットに接続してはなりません。

特に、電気ストーブや電熱器など熱を発生するものは、火災の原因となりますので絶対に接続しないでください。

接続機器が突然動作した時に接続された機器の近傍にいる人が危険になるような機器を絶対に接続しないでください。

また、通信回線の故障などにより遠隔制御が行えなくなった場合でも、安全状態が維持されるように、連続運転可能な装置のみを接続してください。

上記の内容に同意します。

8) Management menu画面が表示されます。

Management menu

モデル名	RPC-M5CS
バージョン	1.00D.190820
MACアドレス	00:09:EE:01:56:11
IPアドレス	<input type="text" value="192.168.10.1"/>
サブネットマスク	<input type="text" value="255.255.255.0"/>
デフォルトゲートウェイ	<input type="text"/>
DNSサーバーアドレス	<input type="text"/>
DHCP機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
HTTP機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
HTTPポート	<input type="text" value="80"/>
TELNET機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
TELNETポート	<input type="text" value="23"/>
リンク速度とDuplex	<input type="text" value="自動検知"/>
IPフィルター機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
子機グループ	<input type="text" value="Disabled"/>
ホスト別MACアドレス	<input type="text" value="000000000000"/>

- 9) IPアドレス欄にご利用になるLANに適切なIPアドレスを入力します。
運用時にIPアドレスを固定にして利用する場合、「DHCP機能」を無効にチェックしたままで、IPアドレス欄にご利用になるLANに適切なIPアドレスを入力します。
DHCPを利用して動的にIPアドレスを割り当てる場合は、「DHCP機能」を有効にチェックして「適用」をクリックします。
- 10) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。
- 11) その他、「TELNET機能」など必要に応じて設定を行います。設定が終了しましたら、「適用」をクリックします。
- 12) 本体前面のDIPスイッチ3をOFFにします。(運用モードにします。)
- 13) 本体前面のRESETスイッチを押します。
- 14) Webブラウザを閉じます。
- 15) 設定用PCのIPアドレスを元に戻します。

<p>注意 設定後は、必ず「適用」をクリックし、「RESETスイッチ」を押してください。 「RESETスイッチ」を押さないと設定が反映されません。</p>

2. 初期化の方法

本装置を初期化して出荷状態に戻します。

(まだ電源コードをコンセントに接続しないでください。)

- 1) 本体前面のDIPスイッチ1と3のみON(下)にします。
- 2) 電源コードをコンセントに接続し、電源を供給します。
- 3) 本体前面のLINK LEDが5秒間点灯します。
点灯中に本体前面のRESETスイッチを1秒程度、押します。
- 4) 初期化が成功するとLINK LEDとACT LEDが点灯します。
- 5) RESETスイッチを押す前にLINK LEDが消灯してしまった場合は一旦電源コードを抜き電源を供給からやり直してください。
- 6) 初期化後は、DIPスイッチ3のみON(下)にし、再度電源を供給してからご使用ください。
- 7) 初期化後は再度、使用条件の確認と同意が必要になりますので、「第3章 初期設定」から実行してください。

注意	初期化中は本体の電源を切らないで下さい。
----	----------------------

3. 一斉電源制御受付

一斉電源制御とは、複数の本装置を最大8グループに分けて、各グループ単位で一斉制御コマンドを送り、電源を制御することが出来る機能です。ブロードキャストパケットを利用しています。

一斉電源制御コマンドを送る方法は、第4章4.[3]をご覧ください。

[1] 受付状態設定方法

1) 本体起動後、本体前面のDIPスイッチ3のみON(下)にし、RESETボタンを押します。これで「メンテナンスモード」になります。「メンテナンスモード」はIPアドレスが192.168.10.1固定です。アクセスする機器のIPアドレスを192.168.10.2などに設定する必要があります。

2) メンテナンスモードの設定画面の下部(赤の枠)で「子機グループ」「ホスト側MACアドレス」を設定します。

子機グループ: Disabled[デフォルト]
Group1~8

ホスト側MACアドレス:

一斉電源制御コマンドが送られてくる親機のMACアドレスを指定します。

3) 「適用」を押し、DIPスイッチをすべてOFF(上)にして、RESETボタンを押すと一斉電源制御受付状態になります。



注意 一斉電源制御受付状態になるとWEB画面にアクセスすることができません。本装置と通信するためにはシリアル通信かTELNET通信で、Supervisor権限でログインする必要があります。

TELNET通信はデフォルトでは「無効」となっています。(画像の緑の枠)シリアル通信ができない状況で一斉電源制御受付状態にする場合、「TELNET機能」を「有効」に設定にしておいてください。

[2] 受付状態解除方法

- 1) シリアル通信もしくはTELNET通信において, Supervisor権限でログインしてください。
- 2) ログイン後, 「.broadGroup=0」と入力し, エコーが返ってきたなら, 「write」コマンドによって受付状態無効を書き込みます。
- 3) その後, 「cpureset」と入力しEnterキーを押してください。

受付状態が無効になったため, WEB画面にアクセスすることが可能になっています。

第4章
WEBブラウザ
での設定, 制御

1. ログイン

[1] IPアドレスを固定にして利用する場合

インターネットでアクセスする場合は, 通信機器の設定が必要です。通信機器の設定などは通信機器のマニュアルに従ってください。
(PROXY経由ではご利用になれません)

注意 ブラウザはJavaScriptとフレームに対応している必要があります。

推奨ブラウザは弊社HP「よくある質問」をご覧ください。

<https://www.meikyo.co.jp/faq/>

- 1) WEBブラウザを起動し, 本装置に設定されたIPアドレスを指定してアクセスします。

(例 IPアドレス : 192.168.10.1)

HTTPポート番号「80」デフォルトの場合

http://192.168.10.1

HTTPポート番号「500」に設定した場合

http://192.168.10.1:500

- 2) ブラウザ依存のユーザー名/パスワード入力用のポップアップ画面が表示されます。



注意 ブラウザによっては, ポップアップ画面がアドレス入力画面の裏に隠れている場合があります。

3)ユーザーIDとパスワードを入力し,「OK」ボタンをクリックします。

ユーザーID : admin (デフォルト)

パスワード : magic (デフォルト)

4)簡易情報表示画面が表示されます。

簡易情報表示画面



注意

簡易情報表示は現在の本装置の状態を表示する画面で実際に制御することは出来ません。

電源制御可能な他のユーザー (Admin, Control権限) がログイン中の場合, 当該方法にて新たにログインすることはできません。

ただし, Ident, Supervisor権限ではログインすることが可能です。

(ユーザーアカウントの設定については, 「第4章 Webブラウザでの設定, 制御」の「セキュリティ設定」をご確認ください。)

[2] RPCサーチソフトを利用する場合

当社ホームページ(<https://www.meikyo.co.jp/download/>)よりRPCサーチソフトをダウンロードし、ご利用して頂ければDHCP機能を利用した本装置を検索し接続することができます。

設定用PCと本装置とは、DHCPサーバーの存在するLANに接続します。

- 1) RPCサーチソフトを起動し、「検索」ボタンをクリックします。

RPCサーチソフト機器検索画面



- 2) 機器一覧にある本装置を選択し、「WEB接続」ボタンをクリックする。
または「TELNET接続」ボタンをクリックし、本装置に設定されたユーザー名とパスワードを入力してアクセスします。
- 3) ユーザー名(デフォルト:admin)とパスワード(デフォルト:magic)を入力します。

注意 :「WEB接続」の場合はブラウザ依存のユーザー名/パスワード入力用のポップアップ画面が表示されます。

- 4)簡易情報表示画面が表示されます。

注意 「LINK」LEDと「ACT」LEDが、いつまでも交互に点滅している時は、DHCPによるアドレス取得ができない状態です。DHCPサーバーを確認するか、IPアドレスを固定にしてご利用ください。

2. 設定項目

[0] 入力可能な半角文字について

WEB画面の各種設定項目にて「半角英数記号__字以内」となっている項目については下記の図のとおりとなります。

		下1桁															
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
上1桁	20	space	!	''	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/
	30	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
	40	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
	50	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_
	60	`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
	70	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	

→使える文字
 →使えない文字、使用位置によっては入力不可の文字
 →項目によっては使えない文字 (IDに使用することができません)

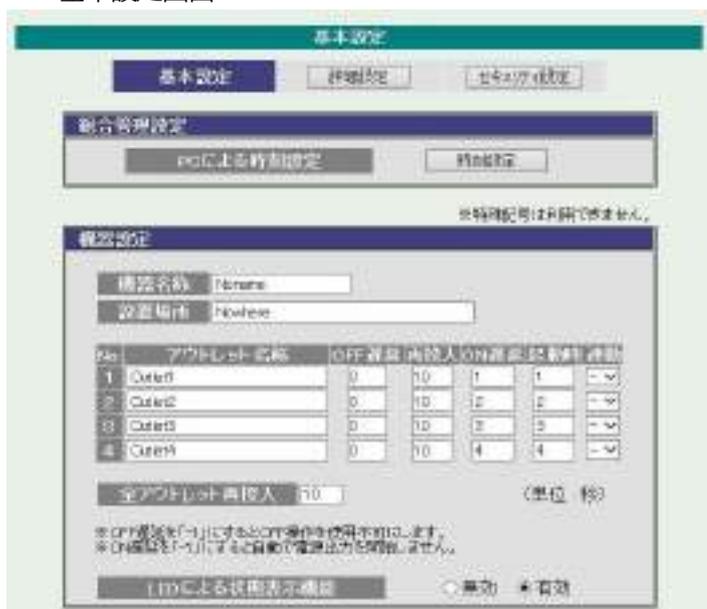
そして、「半角__字以内」となっている項目は上記の表の文字に加えて、半角カナも使用可能です。

[1] 基本設定

(1) 基本設定

- 1) 画面左側設定項目の「基本設定」をクリックします。基本設定画面が表示されます。

基本設定画面





<1> 総合管理設定

1) 総合管理設定の「時刻設定」をクリックします。時刻設定画面が表示されます。

時刻設定画面



PCの時刻による設定

「適用」をクリックすると接続されたPCの時刻に設定されます。

<2> 機器設定

機器に関する設定をします。

「機器名称」: 機器名称を設定します。(全角9文字, 半角19文字以内)

「設置場所」: 設置場所を設定します。(全角31文字, 半角63文字以内)

① 「アウトレット名称」: 個別アウトレットの名称を設定します。
(全角10文字, 半角20文字以内)

② 「OFF遅延」

個別アウトレットの電源出力を停止する際のOFF遅延時間を設定します。

「-1」設定は、電源OFF操作を禁止にし、リポート操作のみ有効とします。ルーターやハブなど誤操作による電源OFFを避けたい場合に便利です。(電源切断により、ネットワークへアクセスできなくなるケースを回避します。)

遅延時間は以下の操作を行う際に適用されます。

- ・個別アウトレット制御のOFF操作

・全アウトレット制御のOFF操作

デフォルト	:	0
設定可能値	:	-1 ~ 3600(秒)
「 -1 」	:	アウトレット制御のOFF操作を使用不可にします。リブ ート操作のみ可能です。
「 0 」	:	即座に電源出力を停止します。
「 1~3600 」	:	指定した時間遅延させた後, 電源出力を 停止します。

③ 「再投入」

個別アウトレットの電源出力を停止してから開始するまでの時間を設定します。この設定により, 接続された任意のデバイスに最適なりブート時間を確保できます。

再投入時間は以下の操作を行う際に適用されます。

・個別アウトレット制御のリブート操作

デフォルト	:	10
設定可能値	:	8 ~ 3600(秒)

④ 「ON遅延」

個別アウトレットの電源出力を開始するまでの時間を設定します。この設定により, 指定した順番に, 指定したタイミングで個別アウトレットの電源出力を開始させることができます。

遅延時間は以下の操作を行う際に適用されます。

・全アウトレット制御のON操作

・全アウトレット制御のリブート操作(関連は「全アウトレットREBOOT時間」で)

デフォルト	:	No.1→1(秒) No.2→2(秒) No.3→3(秒) No.4→4(秒)
-------	---	--

設定可能値	:	-1 ~ 3600(秒)
-------	---	--------------

「 -1 」 : 自動で電源出力を開始しません。

「 0 」 : 即座に電源出力を開始します。

「 1~3600 」 : 指定した時間遅延させた後, 電源出力を開始します。

⑤ 「起動時」

起動時の電源出力を開始するまでの時間を設定します。

設定方法は ④ON遅延 と同様です。

⑥ 「連動」

指定したアウトレットの動作に連動します。

⑦ 「全アウトレット再投入時間」

全アウトレットの電源出力を停止してから電源出力を開始するまでの時間を設定します。

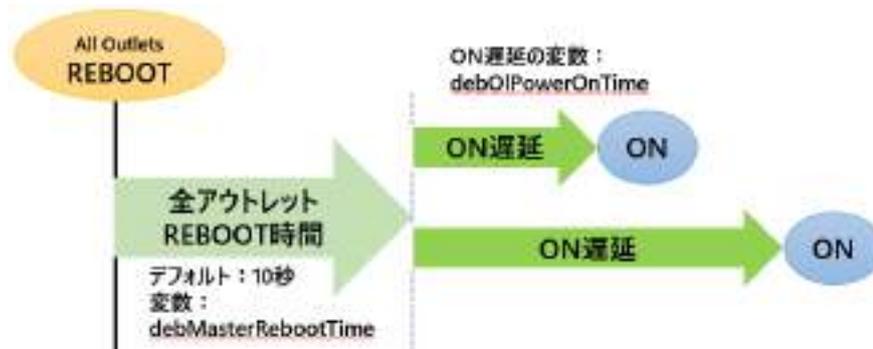
再投入時間は以下の操作を行う際に適用されます。

注)個別アウトレットの再投入時間は反映されません。

・全アウトレット制御のリブート操作

デフォルト :10

設定可能値 :8~3600(秒)



⑧ 「LEDによる状態表示機能」 デフォルト:[有効]

有効:各LEDの状態表示が動作します。

無効:PILOT, OUTLET LEDの点滅動作はなくなり,点灯または消灯となります。

<3> WakeOnLAN設定

WakeOnLANに関する設定をします。

WakeOnLAN(WOL)機能について

WakeOnLAN対応の機器を電源出力開始と同時にマジックパケットを送信し,ブートアップさせることができます。

注意 アウトレットの電源状態がOFFからONになるときにマジックパケットが送出されます。そのため、**アウトレットがONの状態時に「電源ONコマンド」を実行してもWOLは実行されません。**「電源REBOOTコマンド」であれば、WOLを実行できます。または、仮想アウトレット制御をご使用ください。

アウトレット1~4 デフォルト : 00:00:00:00:00:00

MACアドレス

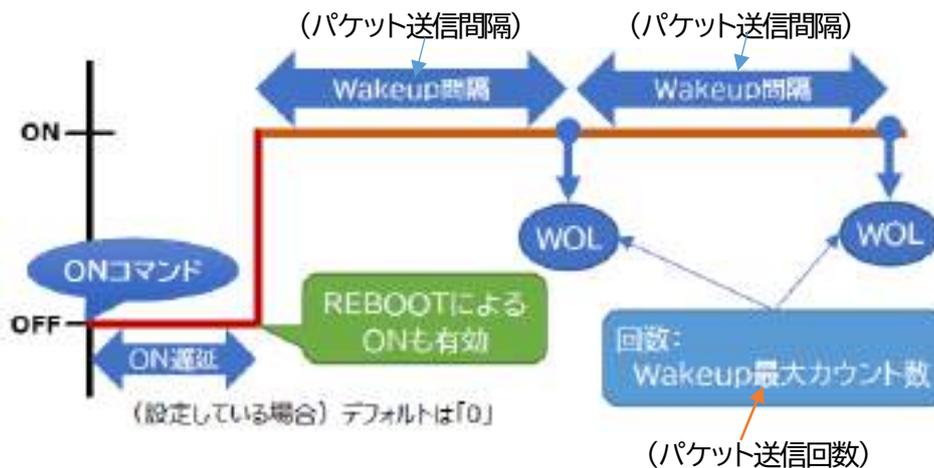
パケット送信回数(回) デフォルト : 2

パケット送信間隔(秒) デフォルト : 15

* パケット送信回数は仮想アウトレットと共用です。

* パケット送信間隔は仮想アウトレットと共用です。

* アウトレットがONした時,マジックパケットを送出します。



- 1) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。
- 2) 「送信テスト画面へ」をクリックし、送信テスト画面を表示させWakeOnLAN送信テストの各アウトレットの「送信」をクリックすると設定されている「MACアドレス」へマジックパケットを送信します。

送信テスト画面



<4> 温度センサー設定

温度センサーに関する設定をします。

温度センサー : [無効] [有効] (デフォルト:無効)

注意 別売の温度センサー(RP-TS003)をご使用ください。
また、温度センサーを接続せずにこの項目を[有効]にすると、「0.0℃」という計測になります。

注意 「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPUリセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

(2) 詳細設定

本装置のシャットダウンスクリプト、仮想アウトレット、COM.1ポートに関する設定をします。

基本設定項目の「詳細設定」をクリックします。詳細設定画面が表示されます。

詳細設定

基本設定
詳細設定
セキュリティ設定

外部接続設定

シャットダウン
スクリプト設定

※特殊記号は利用できません。

仮想アウトレット設定 [Wake On LAN]

No.	仮想アウトレット名称	MACアドレス	ON遅延
1	<input type="text"/>	<input type="text"/>	0 秒
2	<input type="text"/>	<input type="text"/>	0 秒
3	<input type="text"/>	<input type="text"/>	0 秒
4	<input type="text"/>	<input type="text"/>	0 秒
5	<input type="text"/>	<input type="text"/>	0 秒
6	<input type="text"/>	<input type="text"/>	0 秒
7	<input type="text"/>	<input type="text"/>	0 秒
8	<input type="text"/>	<input type="text"/>	0 秒

※MACアドレスの形式: 00:00:00:00:00:00

バケット送信回数 回

バケット送信間隔 秒

COMポート設定

COM1 通信速度

COM1 キャラクター長

COM1 ストップビット

COM1 パリティ

適用 リセット

<1> 外部接続設定

本装置にシャットダウンスクリプトに関する設定をします。

- 1) 「スクリプト設定」をクリックします。スクリプト設定画面が表示されます。

スクリプト設定画面

詳細は「第8章シャットダウンスクリプト」をご参照ください。

① スクリプト設定(アウトレット*)

スクリプト実行	: [無効] [有効]
スクリプト番号	: 1(デフォルト Windows用スクリプトが登録済)
IPアドレス	: シャットダウン対象IPアドレスを設定します。
Port番号	: 0(デフォルト)
ログインID	: 半角英数記号16文字以内
パスワード	: 半角英数記号16文字以内
PING実行先	:
PING間隔	: 0(デフォルト)
PING回数	: 0(デフォルト)
PING限度	: 0(デフォルト)
メッセージ	

2)「スクリプト登録」をクリックします。スクリプトファイル画面が表示されます。

スクリプトファイル画面



スクリプトファイル指定項目に、スクリプトファイルを選択します。

スクリプトエラー時の終了コードによる電源OFF

終了コードがこの値を超えていたら、電源をOFFしません。

「0」なら、終了コードが0のときだけOFFにします。

「255」なら、どんなときにもOFFにします。

詳細は「[第8章シャットダウンスクリプト](#)」をご参照ください。

<2> 仮想アウトレット設定

仮想アウトレットに関する設定をします。

仮想アウトレットについて

仮想アウトレットとは, 実際には存在しないアウトレットであり, 関連付けされたMACアドレスへマジックパケットを送出して, WakeOnLAN機能を実現させるためのものです。

仮想アウトレット名称	:	仮想アウトレット名称を設定します。 全角10文字, 半角20文字以内
MACアドレス	デフォルト	: 00:00:00:00:00:00
ON遅延(※)(秒)	デフォルト	: 0 (詳しくは下図にて)
パケット送信回数(回)	デフォルト	: 2
パケット送信間隔(秒)	デフォルト	: 15

注意 本製品の仕様で, 本体主電源投入時に「全仮想アウトレットON」のコマンドが発報されます。(「イベントログ」記録開始前に実行されるため, ログには記録されずに実行されます。)

●(※)「ON遅延」について●

「電源制御-仮想アウトレット制御-仮想アウトレット情報」で「全仮想アウトレット」を[電源ON]にしたときに, このON遅延が発生します。



<3> COMポート設定

COMポートに関する設定をします。

COM1通信速度	デフォルト	:	38400bps
COM1キャラクター長	デフォルト	:	8bits
COM1ストップビット	デフォルト	:	1bit
COM1パリティ	デフォルト	:	none

設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

(3) セキュリティ設定

本装置にセキュリティに関する設定をします。

<1> ユーザーアカウント設定

(WEBからのログイン時に有効)

- TELNETでのログインで使用するID, パスワードはここでは設定できません。

- 1)「ユーザーアカウント設定」をクリックします。
ユーザーアカウント設定画面が表示されます。

ユーザーアカウント設定画面

セキュリティ設定

ユーザーアカウント設定 セキュリティ詳細設定 基本設定に戻る

※ 入力項目は半角英数字のみ有効

libnet (システム情報の参照のみ)

HTTP 認証用

No.	ユーザーID	パスワード	No.	ユーザーID	パスワード
1			6		
2			7		
3			8		
4			9		
5			10		

Control (システム情報参照と電装の制御のみ)

HTTP 認証用

No.	ユーザーID	パスワード	No.	ユーザーID	パスワード
1			6		
2			7		
3			8		
4			9		
5			10		

Admin

HTTP 認証用

No.	ユーザーID	パスワード	No.	ユーザーID	パスワード
1	admin	*****	4		
2			5		
3					

Supervisor

HTTP 認証用

No.	ユーザーID	パスワード	No.	ユーザーID	パスワード
1	user	*****	4		
2			5		
3					

適用 リセット

Ident : (HTTP接続用)システム情報の参照のみ(※ 最大10件登録)

Control : (HTTP接続用)システム情報参照と電源の制御のみ(※ 最大10件登録)

Admin : (HTTP接続用)全ての権限 (※ 最大5件登録)
 ユーザーID(デフォルト : admin) パスワード(デフォルト: magic)

Supervisor: (HTTP接続用)Ident権限にCPUリセット機能を追加
 (※最大 5件登録)
 ユーザーID(デフォルト : super) パスワード(デフォルト: illusion)

ユーザーID : 最大半角英数記号8文字 (重複不可) (@は不可)
 パスワード : 最大半角英数記号16文字 (重複可)

	Ident	Control	Admin	Supervisor
簡易状態表示	○	○	○	○
監視状態表示	○	○	○	○
イベントログ	×	×	○	×
電源制御	×	○	○	×
各種設定	×	×	○	×
CPUリセット	×	×	○	○

2)設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 “COMポート/TELNET接続用”ID, パスワードに関しては「第6章 その他の制御」をご確認ください。

<2> セキュリティ詳細設定

1)「セキュリティ詳細設定」をクリックします。セキュリティ詳細設定画面が表示されます。

セキュリティ詳細設定画面

セキュリティ設定

ユーザーアカウント設定 **セキュリティ詳細設定** 基本設定に戻る

IPフィルター設定

IPフィルター機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
アドレス1	192.168.10.0
アドレス2	
アドレス3	
アドレス4	
アドレス5	
アドレス6	
アドレス7	
アドレス8	
アドレス9	
アドレス10	

Ident Control権限の表示操作制限

監視状態表示	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
仮想アウトレット制御	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
一斉電源制御	
電源ONボタン	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
電源OFFボタン	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
電源リポートボタン	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
アウトレット1 関連	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
アウトレット2 関連	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
アウトレット3 関連	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
アウトレット4 関連	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
全アウトレット制御ボタン	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示

機器制御

バージョンアップ機能: 有効

適用 リセット

① IPフィルター設定

IPフィルター機能 : [有効] [無効]
アドレス : 192.168.10.0(デフォルト)
(最大10アドレス)

★「IPフィルター」に関して, 次のページに詳細説明があります。

② Ident Control権限の表示制限

監視状態表示 : 隠す 表示
仮想アウトレット制御 : 隠す 表示
一斉電源制御
電源ONボタン : 隠す 表示
電源OFFボタン : 隠す 表示
電源リブートボタン : 隠す 表示
アウトレット1-4関連 : 隠す 表示
全アウトレット制御ボタン : 隠す 表示

「隠す」にチェックするとWEB接続時, Ident Control権限での各表示を隠すことが出来ます。

③ 機器制御 : バージョンアップ機能

[無効]: ファームウェア更新機能を無効にします。
[ローカルファイルのみ]: ファームウェア更新をローカルからのみ有効にします。
[オンラインのみ]: ファームウェア更新を明京サーバーからのみ有効にします。
[有効]: ファームウェア更新をローカル/明京サーバーの両方から有効にします。

2)設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 「適用」をクリックしないと設定した内容が有効になりません。

■IPフィルターについて

細かに設定する場合、TELNETで変数を用いて設定する必要があります。

関係する変数名

IPフィルターアドレス : ipFilterAddr (WEB画面でも設定可能)
IPフィルターマスク : ipFilterMask (WEB画面には項目がない)

IPフィルター機能はビット単位のマスク機能です。(IPv4のサブネットマスク)

基本的にマスクを「255」にすると「必ずその値でなければならない」となり、

「0」にすると「その部分はあらゆる数値をとれる」となります。

ですので、ipFilterMask=255.255.255.0

ipFilterAddr=192.168.10.0 とすると、

「192.168.10.1～192.168.10.254」から接続可能になります。

(1)指定のIPアドレスからのみアクセスできるようにする場合

例:「192.168.1.119」「10.149.15.12」「10.46.48.111」の3つのアドレスからのアクセスのみ受け付けたい。

ipFilterMask=255.255.255.255 にすることで、そのアドレスのみ可能にできます。

TELNETやシリアルコンソールで、次の変数を書き込みます。

(変数なので、初めに「.(ピリオド)」が必要です。)(区切りに「,(コンマ)」を使っています)

ipFilterMask=255.255.255.255,255.255.255.255,255.255.255.255

ipFilterAddr=192.168.1.119,10.149.15.12,10.46.48.111

この後「>」の後に「write」を入力してEnterを押すことで設定が書き込まれます。

(2)ある範囲のIPアドレスからのみアクセスできるようにする場合

例I 「192.168.10.1～192.168.10.150」まで接続可能にしたい場合

まず「192.168.10.」の部分は「必ずその値であるべき」なのでマスクは「255.255.255.」で始めます。最後の一枚に関して2進法を使って設定していきます。

「150」を2進法で表すと「10010110」となります。つまり、128+16+4+2です。【2進法の「1」に注目しています。】

このとき「128」,「128+16=144」,「128+16+4=148」,「128+16+4+2=150」の4つを区切りとして考えます。

【ipFilterMaskルール】

2進法にして「0」→「0,1両方可」, 「1」→「固定部分」とマスクをかける。

	x=0,1どちらでも 網掛け=固定	ipFilterMask 2進法	ipFilterAddr 2進法		ipFilterMask 10進法	ipFilterAddr 10進法
1~127	0xxxxxxx	1 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0	→	128	0
128~143	1000xxxx	1 1 1 1 0 0 0 0	1 0 0 0 0 0 0 0	→	240	128
144~147	100100xx	1 1 1 1 1 0 0 0	1 0 0 1 0 0 0 0	→	252	144
148~149	1001010x	1 1 1 1 1 1 0 0	1 0 0 1 0 1 0 0	→	254	148
150	10010110	1 1 1 1 1 1 1 1	1 0 0 1 0 1 1 0	→	255	150

となるので, TELNETやシリアルコンソールで, 次の変数を書き込みます。

(変数なので, 初めに「.(ピリオド)」が必要です。)(区切りに「,(コンマ)」を使っています)

.ipFilterMask=255.255.255.128,255.255.255.240,255.255.255.252,255.255.255.254,255.255.255.255

.ipFilterAddr=192.168.10.0,192.168.10.128,192.168.10.144,192.168.10.148,192.168.10.150

この後「>」の後に「write」を入力してEnterを押すことで設定が書き込まれます。

例2 「192.168.10.151~192.168.10.254」まで接続可能にしたい場合

これも最後の一枚だけ考えます。

「151」を2進法で表すと「10010111」となります。この数字から255を目指すので, 今度は2進法の「0」に注目すると, あと「8+32+64」あれば255になります。(IPアドレスで255は使用しません。ただフィルターのマスクを考えるにあたっては便宜上255をイメージします)

このとき「151」, 「151+8=159」, 「151+8+32=191」, 「151+8+32+64=255」の4つで考えます。

【ipFilterMaskルール】

2進法にして「0」→「0,1両方可」, 「1」→「固定部分」とマスクをかける。

	x=0,1どちらでも 網掛け=固定	ipFilterMask 2進法	ipFilterAddr 2進法		ipFilterMask 10進法	ipFilterAddr 10進法
151	10010111	1 1 1 1 1 1 1 1	1 0 0 1 0 1 1 1	→	255	151
152~159	10011xxx	1 1 1 1 1 0 0 0	1 0 0 1 1 0 0 0	→	248	152
160~191	101xxxxx	1 1 1 0 0 0 0 0	1 0 1 0 0 0 0 0	→	224	160
192~255	11xxxxxx	1 1 0 0 0 0 0 0	1 1 0 0 0 0 0 0	→	192	192

となるので, TELNETやシリアルコンソールで, 次の変数を書き込みます。

(変数なので, 初めに「.(ピリオド)」が必要です。)(区切りに「,(コンマ)」を使っています)

.ipFilterMask=255.255.255.255,255.255.255.248,255.255.255.224,255.255.255.192

.ipFilterAddr=192.168.10.151,192.168.10.152,192.168.10.160,192.168.10.192

この後「>」の後に「write」を入力してEnterを押すことで設定が書き込まれます。

これで「192.168.10.151~192.168.10.254」だけが接続できるようになりました。

[2] 通信設定

本装置のネットワークに関する設定をします。

(1) 通信基本設定

1)「通信基本設定」をクリックします。通信基本設定画面が表示されます。

通信基本設定画面

通信基本設定

通信設定 通信制御設定 入-1設定

*入力欄は半角英数字のみ有効

ネットワーク設定

IPアドレス	192.168.10.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	
DNSサーバーアドレス	
DHCP機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
FTPサーバー	
FTP更新間隔	5 [日:0分]
HTTP機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
HTTP認証	Digest
認証資格名(auth)文字	BPO-MKCS
nonce有効時間	100
HTTPポート	80
TELNET機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
TELNETポート	23
TELNET中継先IP	
TELNET中継先ポート	23
リンク速度のOverseer	自動検出
自動ログアウト機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効

※ネットワーク設定はP/Mリセット後に有効になります。

関連項目

無通信タイマー(秒)	600
WEB自動更新再起	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
WEB自動更新間隔(秒)	300

ダイレクトWEBコマンド制御

ダイレクトWEBコマンド実行後の動作	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	[F]
	標準	
アウトレット表示制限	1 2 3 4	[F] [F] [F] [F]
表示制限	死蔵表示	<input checked="" type="checkbox"/>
	溢れ表示	<input checked="" type="checkbox"/>

保存 1/2/3/4

① ネットワーク設定

IPアドレス	デフォルト	:	192.168.10.1
サブネットマスク	デフォルト	:	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	デフォルト	:	0.0.0.0
DNSサーバーアドレス	デフォルト	:	0.0.0.0
DHCP機能	デフォルト	:	無効
NTPサーバー	デフォルト	:	0.0.0.0
NTP更新間隔	デフォルト	:	6(×10分)
HTTP機能	デフォルト	:	有効
HTTP認証	デフォルト	:	Digest認証
認証領域(realm)名称	デフォルト	:	RPC-M5CS (半角20文字以内)
nonce有効時間	デフォルト	:	180 (秒) 設定可能値 30~30000
HTTPポート	デフォルト	:	80
TELNET機能	デフォルト	:	無効
TELNETポート	デフォルト	:	23
TELNET中継先IP	デフォルト	:	0.0.0.0
TELNET中継先ポート	デフォルト	:	23
リンク速度とDuplex	デフォルト	:	自動検知
自動ログアウト監視	デフォルト	:	有効

注意	<p>HTTP認証を「none」に設定するとブラウザでアクセス時にログイン画面が表示されます。</p> <p>「Basic」または「Digest」に設定するとブラウザ依存のポップアップ画面にIDとパスワードを入力する方式になります。</p>
----	--

外部のネットワークから接続するため、IPアドレスを固定にしてルーターのポートフォワーディング機能を利用する場合は、DHCPを無効にしてください。

注意	<p>DHCP利用中、IPアドレスの取り直しが行われると本装置は自動的にCPURESETを行います。</p>
----	--

② 関連項目

- 無通信タイマー : 自動ログアウトまでの時間を設定します。
デフォルト : 600
設定可能値 : 30 ~ 30000 (秒)
- WEB自動更新機能 : デフォルト 無効
(「無効」にしても、電源制御画面だけは必ず自動更新されます。)
- WEB自動更新間隔 : WEBと電源制御画面の自動更新間隔時間を設定します。
デフォルト : 30

③ ダイレクトWEBコマンド制御

- ダイレクトWEBコマンド : デフォルト 無効
- 実行後の動作 : 実行後の動作を設定します。
- アウトレット表示制限 : チェックしたアウトレットを表示します。
- 表示制限 : チェックした表示制限項目を表示します。

注意	ダイレクトWEBコマンドについては「第6章 その他の制御」の「5. WEBコマンドからの制御」をご確認ください。
----	--

2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

(2) 通信詳細設定

1)「通信詳細設定」をクリックします。通信詳細設定画面が表示されます。

通信詳細設定画面

通信詳細設定

通信設定
通信詳細設定
メール設定

※ 入力項目は半角英数のみ有効

SNMP基本設定

SET GET設定	○有効	●無効
GETコミュニティ名	<input type="text" value="public"/>	<input type="text"/>
SETコミュニティ名	<input type="text" value="public"/>	<input type="text"/>
TRAPコミュニティ名	<input type="text" value="public"/>	<input type="text"/>
マネージャートラップ	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
Authen Trap	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
トラップIPアドレス1	<input type="text"/>	<input type="text"/>
トラップIPアドレス2	<input type="text"/>	<input type="text"/>
トラップIPアドレス3	<input type="text"/>	<input type="text"/>
トラップIPアドレス4	<input type="text"/>	<input type="text"/>
トラップIPアドレス5	<input type="text"/>	<input type="text"/>
トラップIPアドレス6	<input type="text"/>	<input type="text"/>
トラップIPアドレス7	<input type="text"/>	<input type="text"/>
トラップIPアドレス8	<input type="text"/>	<input type="text"/>

※ ネットワーク設定はCPUリセット後に有効になります。

SNMPフィルター設定

SNMPフィルター機能		○有効	●無効
No.	フィルターIPアドレス	フィルターマスク	
1	<input type="text"/>	<input type="text" value="255.255.255.255"/>	<input type="radio"/>
2	<input type="text"/>	<input type="text" value="255.255.255.255"/>	<input type="radio"/>
3	<input type="text"/>	<input type="text" value="255.255.255.255"/>	<input type="radio"/>
4	<input type="text"/>	<input type="text" value="255.255.255.255"/>	<input type="radio"/>
5	<input type="text"/>	<input type="text" value="255.255.255.255"/>	<input type="radio"/>
6	<input type="text"/>	<input type="text" value="255.255.255.255"/>	<input type="radio"/>
7	<input type="text"/>	<input type="text" value="255.255.255.255"/>	<input type="radio"/>
8	<input type="text"/>	<input type="text" value="255.255.255.255"/>	<input type="radio"/>
9	<input type="text"/>	<input type="text" value="255.255.255.255"/>	<input type="radio"/>
10	<input type="text"/>	<input type="text" value="255.255.255.255"/>	<input type="radio"/>

状態通知機能

状態通知機能		○有効	●無効
1	IPアドレス	<input type="text"/>	<input type="radio"/>
	ポート	<input type="text" value="2000"/>	
2	IPアドレス	<input type="text"/>	<input type="radio"/>
	ポート	<input type="text" value="2000"/>	
3	IPアドレス	<input type="text"/>	<input type="radio"/>
	ポート	<input type="text" value="2000"/>	
送信間隔(秒)		<input type="text" value="300"/>	

適用
リセット

<1> SNMP基本設定

SNMPに関する設定をします。

① SNMP基本設定

SETGET設定		:	有効 無効
GETコミュニティ名	デフォルト	:	Public (全角10文字 半角20文字以内)
SETコミュニティ名	デフォルト	:	Public (全角10文字 半角20文字以内)
TRAPコミュニティ名	デフォルト	:	Public (全角10文字 半角20文字以内)
マネージャートラップ		:	有効 無効
AuthenTrap		:	有効 無効
トラップIPアドレス	デフォルト	:	0.0.0.0 (最大8IPアドレス)

② SNMPフィルター設定

SNMPフィルター機能		:	有効 無効
フィルターIPアドレス	デフォルト	:	0.0.0.0
フィルターマスク	デフォルト	:	255.255.255.255 (最大10アドレス)

<2> 状態通知機能

状態通知機能		:	有効 無効
通知先 IPアドレス1-3	デフォルト	:	0.0.0.0
通知先 ポート1-3	デフォルト	:	5000
送信間隔(秒)	デフォルト	:	300

注意 状態通知機能については「第10章 ネットワーク稼働監視」をご確認ください。

2)設定が終了しましたら「適用」をクリックし, CPUリセットを実行します。

注意 「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPUリセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

(3) メール設定

メール機能に関する設定をします。

1)「メール設定」をクリックします。

メール設定画面

メール設定

通信設定
通信詳細設定
メール設定

※ 入力項目は半角英数のみ有効

メールサーバ設定

ユーザー名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="password"/>
メールアドレス	<input type="text"/>
受信サーバ名	<input type="text"/>
受信ポート	<input type="text" value="110"/>
送信サーバ名	<input type="text"/>
送信ポート	<input type="text" value="25"/>
自動ログアウト時間(分)	<input type="text" value="10"/>
メールチェック間隔(分)	<input type="text" value="3"/>
メールリトライ間隔(秒)	<input type="text" value="10"/>
メールサーバ形式	<input type="radio"/> IMAP <input checked="" type="radio"/> POP3
SMTP認証	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="checkbox"/> CRAM-MD5 <input checked="" type="checkbox"/> LOGIN <input checked="" type="checkbox"/> PLAIN
IMAP認証	<input checked="" type="checkbox"/> CRAM-MD5 <input checked="" type="checkbox"/> LOGIN
APOP利用	<input type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

メール制御設定

メール制御コマンド有効 ?	<input type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
メール制御ユーザー名	<input type="text"/>
メール制御パスワード	<input type="password"/>
送信メール 件名	<input type="text" value="機器名称"/>
送信メール 本文1行目	<input type="text" value="日時又は積算時間"/>
送信メール 本文2行目	<input type="text" value="設置場所"/>
送信メール 本文3行目	<input type="text" value="機器IPアドレス"/>
送信メール 本文4行目	<input type="text" value="MACアドレス"/>
送信メール 本文5行目	<input type="text" value="ユーザー任意1"/>
送信メール 本文6行目	<input type="text" value="イベント内容"/>
送信メール 本文7行目	<input type="text" value="表示無し"/>
送信メール 本文8行目	<input type="text" value="表示無し"/>
ユーザー任意1	<input type="text" value="¥r¥n"/>
ユーザー任意2	<input type="text"/>
ユーザー任意3	<input type="text"/>



① メールサーバー設定

ユーザー名, パスワード, メールアドレス, 受信サーバー名, 受信ポート
送信サーバー名, 送信ポートは, プロバイダからのメール資料に基づき設定します。

注意 **本製品はSSL/TLS通信に対応していません。**そのため, この「メールサーバ設定」(**リポーター側に設定する**メールアドレス)にGmailなどのSSL/TLSを用いたメールを設定することはできません。

ただし, 「**通知先アドレス**」には, **SSL/TLSを用いたメールを設定することができます。**

自動ログアウト時間(分)	デフォルト	: 10
メールチェック間隔(分)	デフォルト	: 3
メールリトライ間隔(秒)	デフォルト	: 10
(変数mailRetryCountで設定した回数送信します。デフォルト:3回)		
メールサーバ形式		: POP3 IMAPを選択
SMTP認証		: 認証方法を選択 CRAM-MD5, LOGIN, PLAIN
IMAP認証		: 認証方法を選択 CRAM-MD5, LOGIN

APOP利用 : 有効 無効

② メール制御設定

メール制御コマンド : [有効] [無効]

★③の「通知先設定」に設定したメールアドレスからのみ制御できます。

メール制御ユーザ名 : 半角英数記号63文字以内

メール制御パスワード : 半角英数記号63文字以内

★使用可能な文字は「第4章」2.[0]参照。

送信メール 件名 [表示無し][機器名称][設置場所]
[機器IPアドレス][MACアドレス]
[イベント内容][ユーザー任意1~3]……(*)
より選択します。

送信メール 本文1行目 日時又は積算時間

送信メール 本文2行目

送信メール 本文3行目

送信メール 本文4行目

送信メール 本文5行目 上記(*)の9つより選択

送信メール 本文6行目

送信メール 本文7行目

送信メール 本文8行目

ユーザー任意1~3 任意のメール通知文を設定
全角21文字, 半角英数43文字以内

③ 通知先設定

通知先アドレス

通知するメールアドレスを設定します。

★メール制御は、ここに登録されているメールアドレスからしか実行できません。

最大8件設定できます。

TOで送信します。

(CC,BCCで送信する場合はTELNETで変数から設定します)

●「通知先アドレス」には、SSL/TLSを用いたメールを設定することができます

送信条件フラグ

3種類(PING/スケジュール/ハートビート)から選択できます。

チェックしたフラグに連動してメールが送信されます。

例えば、「PING」では死活監視が[異常]または[回復]に変化した時にメールを送信します。

ログ送信カウント : 設定した数だけログが更新されると通知先アドレスにログを送信
します。
(MAX:20 「0」の時は送信しません。)

- ④ メールサーバのエラーメッセージ情報
メールに失敗した場合, エラー情報を表示します。
クリアにチェックして「適用」をクリックすると消去できます。

2)設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

- 3)「送信テスト画面へ」をクリックし, 送信テスト画面を表示させ, テスト
メール送信の「送信」をクリックすると設定されている通知先アドレスに
テストメールを送信します。

送信テスト画面

注意 「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPUリセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

メール送信のみの利用でPOP/IMAP認証を行わない場合でも、ユーザー名、パスワードは設定してください。

リブーター側に設定したメールアドレスのメールサーバー内のメールは、メールチェック間隔でメールサーバー内のメールをチェックした後、削除されます。
ですので、**リブーターに設定するメールアドレスは専用のものを1つご用意ください。**

[3] 監視設定

本装置の監視に関する設定をします。

(1) PING監視

1)「監視設定」をクリックします。PING監視設定画面が表示されます。

PING監視設定画面



「詳細設定」にチェックし、「適用」をクリックします。
PING監視詳細設定画面が表示されます。

PING監視詳細設定画面

The screenshot shows the '監視設定' (Monitoring Settings) page. At the top, there are tabs for 'PING監視' (PING Monitoring), 'メールサーバに監視' (Monitor Mail Server), 'カーポート' (Car Port), and '遠征監視' (Field Monitoring). The 'PING監視' tab is active. Below the tabs, there is a '詳細設定' (Detailed Settings) section with a checkbox and a note: '※ 入力項目は半角英数字のみ有効' (Only alphanumeric characters are valid for input items). There are four tables for configuring monitoring targets, each with columns for '監視先' (Monitoring Target), 'IPアドレス' (IP Address), 'ポート' (Port), and '対象' (Target). Each table has a '監視先' field, an 'IPアドレス' field with a dropdown for '10' and '10', a 'ポート' field with a dropdown for '1', and a '対象' field with a dropdown for '動作' and '回復' and a '無動作' checkbox. Below each table is a '▲ アウトレット番号' (Outlet Number) field. Below the tables are settings for 'PING 送信間隔(分)' (PING Send Interval (min)) set to 1, '死な監視レポートによる警告(回)' (Alerts by Dead Monitoring Report (times)) set to 12, and '回復不可時の1時間ごとの検知回数(回)' (Detection times per hour when recovery is impossible (times)) set to 1. There is a note: '※0無検知' (※0 No detection). A yellow warning box contains the following text:

- 監視先に対してはMPで検知/送信間隔設定が1番適用されます。
- 送信間隔が1未満の値を設定した場合、1番適用されます。
- 異常と検知した監視先が対象項目に達すると異常と検知し、動作が実行されます。
- 0分をチェックする値により、Default Gatewayの検知監視対象にします。
- アウトレット電源OFFの場合はPING監視は行いません。
- 動作検知がONの場合は、動作検知(監視)が正常で検知回数1以上12時間を超えて動作が実行されます。

 At the bottom, there are '適用' (Apply) and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

- ① 監視先: 監視するIPアドレスまたはドメイン名を設定します。
各アウトレットに最大4ヶ所設定できます。(詳細設定のみ)
例 IPアドレス : 192.168.0.1
例 ドメイン名 : www.meikyo.co.jp
 - ② DG: チェックでデフォルトゲートウェイを監視先に指定します。
 - ③ 送信: 判断するための送信する回数を設定します。
設定可能値 : 1~100 (回)
 - ④ 無答: 送信回数内で異常と判断する無応答回数を設定します。
設定可能値 : 1~100 (回)
 - ⑤ 対象: 動作を実行させるための異常な監視先アドレスの数を設定します。
1~4(詳細設定のみ)
 - ⑥ 動作: 動作を選択します。
無動作 :PING監視を行いません。
リポート :ログに記録し, 電源出力をOFF→ONします。
ログのみ :ログに記録します。電源は制御しません。
 - ⑦ PING送信間隔(分):ICMPエコー要求パケットの送信間隔を設定します。
設定可能値 :1~60
 - ⑧ 死活監視リポートによる警告(回): デフォルト 12
PILOT LEDを点滅させる全アウトレットの死活監視リポート回数
 - ⑨ 回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限(回):デフォルト 0(無制限)
- 2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

監視設定が有効なアウトレットはアウトレット番号の背景色が「青色」に変わります。
また, PING監視が正常な場合は監視番号の背景色が「青色」に変わり, 異常が発生している場合は「赤色」, 回復中は「黄色」に変わります。

注意	応答のない状態が続いた場合は, 約1時間毎に設定された動作を実行します。再度, 条件が成立しても動作は1時間に1度しか実行しません。 温度監視, ハートビート監視が有効設定されたアウトレットでは, PING監視は実行されません。(メールサーバー監視とは併用できます。)
-----------	---

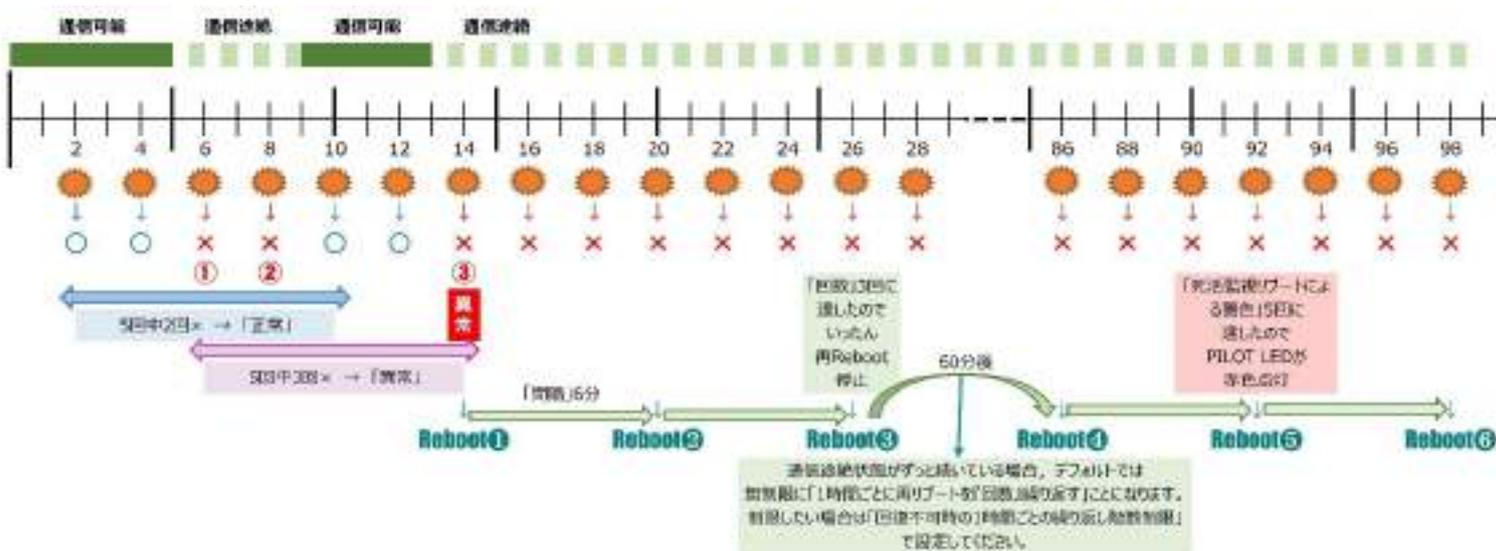
■PING監視の仕組みと動作

監視先アドレスに対して[PING送信間隔(分)]で設定した間隔でICMPエコー要求パケットを1個送出し、応答を待ちます。

設定した[送信]回数内で設定した[無答]回数、無応答であるとその監視先を異常と判断します。異常と判断された監視先が[対象]数に達すると、そのアウトレットを異常と判定し、設定した[動作]を実行します。

[動作]が[レポート]の場合、「再Reboot間隔(分)」ごとに「再Reboot回数」だけレポートを繰り返します。

(例)「PING送信間隔(分)」を「2(分)」,
 「死活監視レポートによる警告(回)」を「5(回)」,
 「送信」を「5(回)」,
 「無答」を「3(回)」,
 「動作」を「レポート」,
 「回数」を「3(回)」,
 「間隔」を「6(分)」に設定した場合。



(2) メールサーバー監視

1)「メールサーバー監視」をクリックします, メールサーバー監視設定画面が表示されます。

メールサーバー監視設定画面



① メールサーバー監視

接続障害回数 : メールサーバーを異常と判断する回数を設定します。

動作 : [無動作]: 監視を行いません。
 [リブート]: ログに記録し, 電源出力をOFF→ONします。
 [ログのみ]: ログに記録します。電源は制御しません。

動作はPING監視と共通の設定になります。

② 現在のメールサーバー設定

メール受信サーバー接続障害回数 : メール受信サーバー接続障害回数を表示します。

メールチェック間隔(分) : メールサーバーのチェック間隔
 デフォルト 3分
 (「通信設定-メール設定」の「メールチェック間隔(分)」の設定が反映されます)

2)設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 メールサーバー監視を行う場合は「メールサーバ設定」で**受信サーバーを正しく設定する**が必要となります。また「メール制御設定」で**メール制御コマンドを有効**にしておく必要があります。（「通知先設定」のメールアドレスは空白でも構いません。）

メールサーバー監視とPING監視の両方を設定すると、いずれかが異常になった時点で動作を実行します。

温度監視, ハートビート監視を有効にしたアウトレットでは, PING監視・メールサーバー監視は実行されません。

(3) ハートビート

1)「ハートビート」をクリックします, ハートビート設定画面が表示されます。

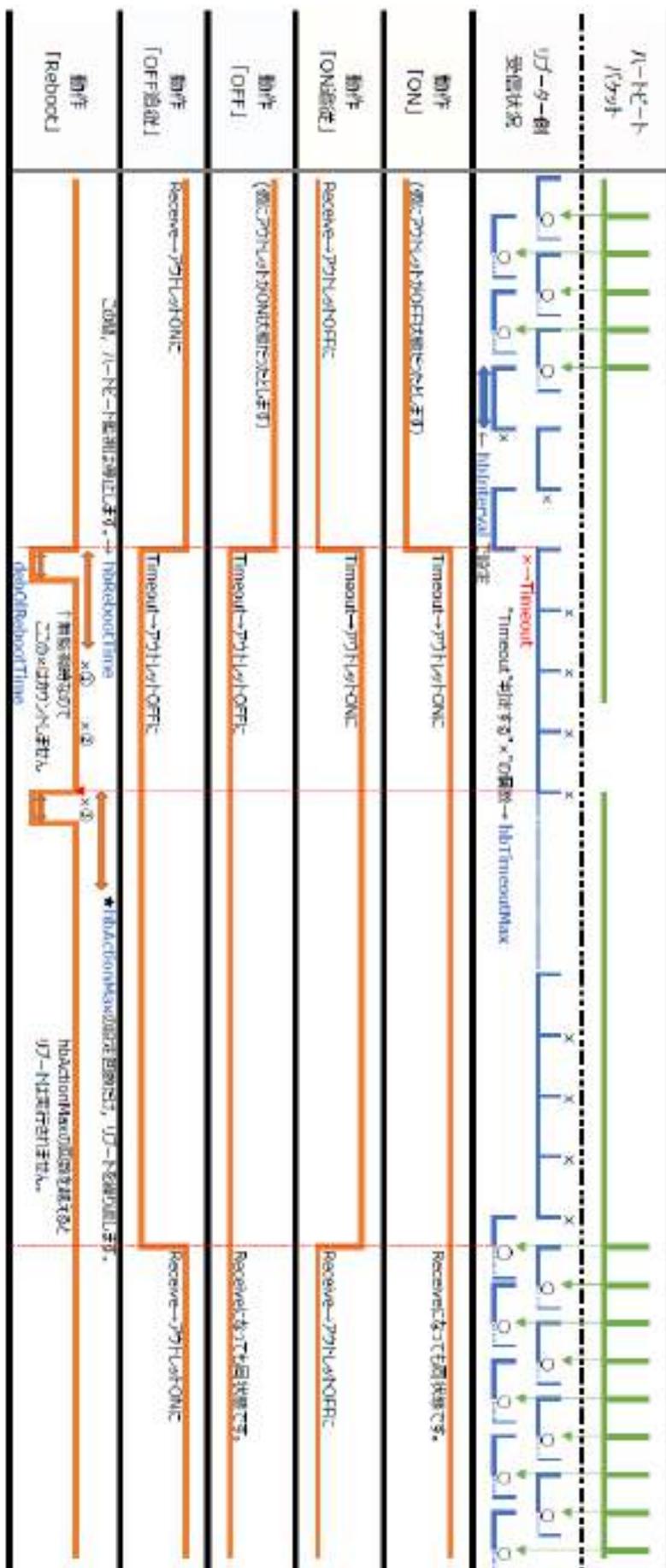
ハートビート設定画面



3) ハートビートを利用するには「ハートビートを利用する」にチェックし「適用」をクリックします。

アウトレット毎の動作を選択します。

	Receive	TimeOut
無効	無変化	無変化
ON	無変化	ONに変化
ON追従	On→Offへ	Off→Onへ
OFF	無変化	Offに変化
OFF追従	Off→Onへ	On→Offへ
リブート	無変化	リブート



ハートビートを設定します。

- 待ち受けポート : リブーター側のパケット待ち受けポート
デフォルト:9100
(推奨値:9100~9199)
- 送信側IPアドレス指定 : ハートビートパケットを受け付ける送信側アドレス
(空白は全て受信) (空白は全てパケットを受け付ける)
- 送信側ポート確認 : PC側(HB側)の送信ポート
デフォルト:9100
(推奨値:9100~9199)
- リポート後, 無監視時間 (秒)** : TimeOut判定によって「リポート」動作実行になった時点からハートビートパケットを待ち受ける間隔(秒)
デフォルト:30
設定可能値:1~999(秒)
- ハートビート監視間隔 (秒)** : ハートビートパケットを受ける間隔
デフォルト:8 設定可能値1~99(秒)
- TimeOut判定数** : 「TimeOut」と判定する「未受信カウント(※)」数。
デフォルト : 3 設定可能値1~99(回)
(※)未受信カウント:「ハートビート監視間隔」で設定した秒数内にハートビートパケットが受信できなかった時,「未受信カウント」が1つ上がります。ハートビートパケットを受信すると,「未受信カウント」は「0」に戻ります。
- 動作最大回数 : 「動作」が「リポート」の場合の実行回数限度
デフォルト : 3 設定可能値1~99(回)

パケット状態

パケット状態([待機中],[パケットを受信],[TimeOut発生中]),送信元IP,未受信カウントを表示します。

3)設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 ハートビート監視を実行しているアウトレットでは、PING監視・メールサーバー監視を実行することは出来ません。

 温度監視を実行しているアウトレットでは、ハートビート監視は実行できません。

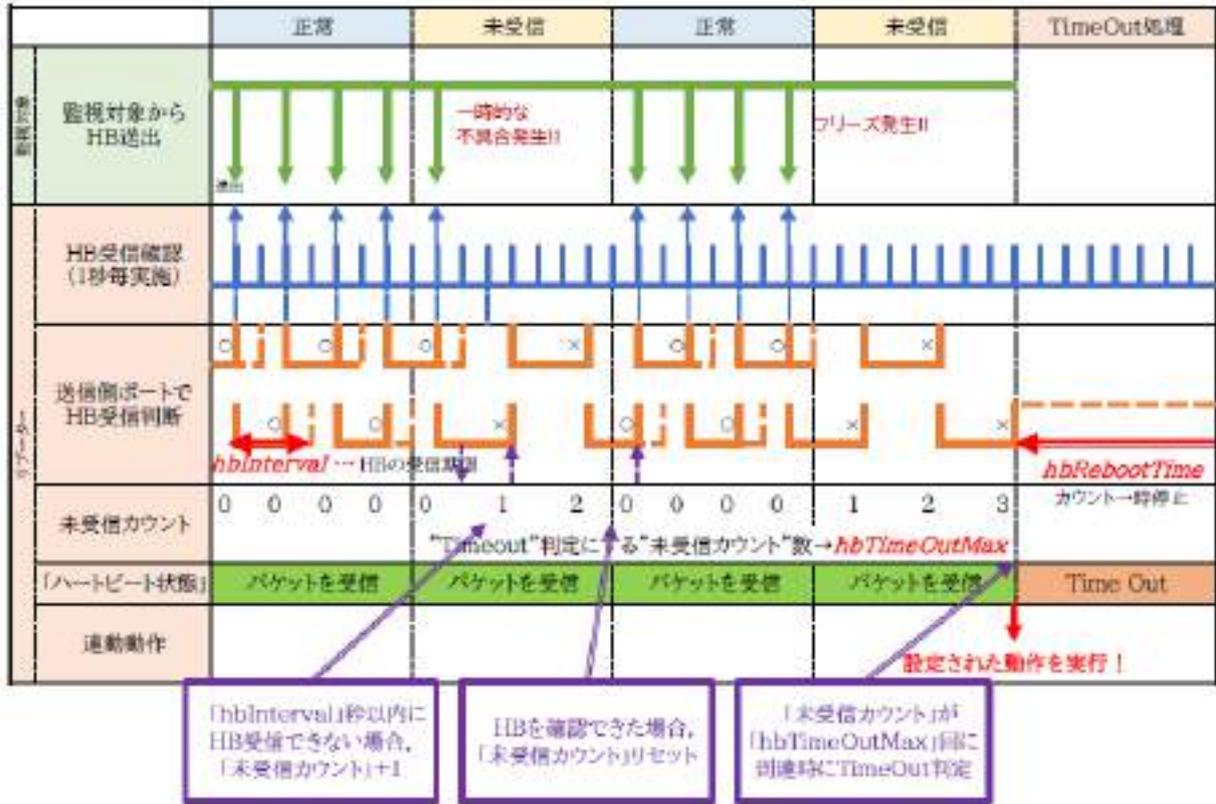
【ハートビートに必要なパケット形式】

UDPパケットのデータ“xxxxxxHB”+CRLFの9文字を受け,“xxxxxxACK”の8文字を返します。(xxxxxxは任意)

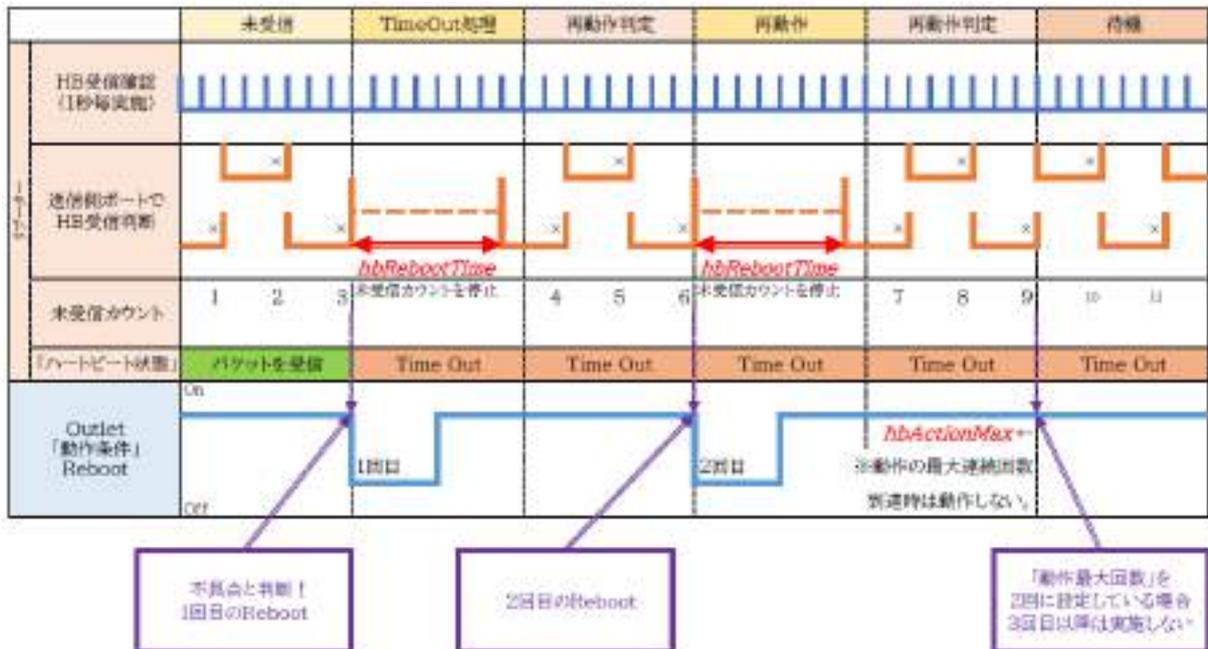
★「ハートビート監視間隔」「TimeOut判定数」「リポート判定後, 無監視時間」の設定がどのように連関しているかは下の図をご覧ください。

図中では変数名で表記されています。

- 変数 hbInterval → 「ハートビート監視間隔」
- hbRebootTime → 「リポート後, 無監視時間」
- hbTimeoutMax → 「TimeOut判定数」



●ハートビートパケットが受信できない状態が続くようになった時



(4) 温度監視

1)「温度監視」をクリックします, 温度監視設定画面が表示されます。

温度監視設定画面



2)本装置と温度センサー(別売)を接続します。

① 温度に関する設定をします。

- | | | |
|-------|---|--|
| 上限警報 | : | 高温の警報温度を設定します。
(デフォルト:45℃) |
| 上限注意 | : | 高温の注意温度を設定します。
(デフォルト:35℃) |
| 上限Hys | : | 高温のヒステリシス温度を設定します。
(デフォルト: 2℃) |
| 下限警報 | : | 低温の警報温度を設定します。
(デフォルト:-5℃) |
| 下限注意 | : | 低温の注意温度を設定します。
(デフォルト: 0℃) |
| 下限Hys | : | 低温のヒステリシス温度を設定します。
(デフォルト: 2℃) |
| 動作 | : | 警報の時の動作を設定します。
無動作 上限警報ON 下限警報ON
上限警報OFF 下限警報OFF |

② 温度範囲(測定温度範囲は-10~80℃)

- 正常範囲 : 下限注意 から 上限注意 までの温度
- 注意範囲 : 上限注意 から 上限警報 までの温度
下限警報 から 下限注意 までの温度
- 異常範囲 : 上限警報 以上の温度
下限警報 以下の温度

3)温度センサーを利用する

チェックすると温度センサーが利用でき, 温度データを表示します。

4)メンテナンスモード

チェックすると温度監視による電源変化は行われません。

注意 別売の温度センサー(RP-TS003)をご使用ください。
→温度センサーを接続せずに、「温度センサーを利用する」にチェックを入れ、適用すると「0.0℃」の計測になります。

温度監視を有効にしたアウトレットでは、PING監視, メールサーバー監視, ハートビート監視は設定できません。

温度監視の仕組みと動作

状態は, 指定した温度により, 「正常」から「注意」, 「注意」から「警報」に変化します。

しかし, 「警報」から「注意」, 「注意」から「正常」への状態変化には, 指定した温度にヒステリシス温度を加えた変化が必要です。これにより閾値近辺で状態が頻繁に変化することを防ぎます。

メールは, 温度にチェックがあると, 「正常」「注意」「警報」の状態に変化すると送信されます。

電源制御は, 「警報」になった場合に実施されます。

[4] スケジュール設定

本装置のスケジュールに関する設定をします。最大20件登録できます。

1)「スケジュール設定」をクリックします。

スケジュール設定画面

スケジュール設定


NTPサーバーへの接続に失敗しています。
時刻が未設定または不正確な場合があります。

スケジュールリスト

No.	有効	アウトレット	曜日	時	分	動作
1	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
2	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
3	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
4	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
5	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
6	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
7	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
8	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
9	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
10	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
11	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
12	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
13	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
14	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
15	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
16	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
17	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
18	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
19	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
20	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作

注意！仮想アウトレットの場合、「電源OFF」「レポート」では動作しません。「電源ON」のみ動作します。

- ① 有効 : 設定したスケジュールの有効/無効
 : チェックしたNo.が有効になります。

- ② アウトレット : 制御するアウトレットNo.
 : 全アウトレット, アウトレット1~4
 : 全仮想アウトレット, 仮想アウトレット1~8

- ③ 曜日 : 実行する曜日(毎日または指定曜日)
 : 毎日 日曜 月曜 火曜 水曜
 : 木曜 金曜 土曜

- ④ 時 : 実行する時間
 : 0 ~ 23

- ⑤ 分 : 実行する分
0 ~ 59
- ⑥ 動作 : 実行する動作
無動作 リポート 電源ON 電源OFF 定時メール
(仮想アウトレットではONのみ有効)

2)設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意

スケジュール設定を使う場合はNTPサーバーの設定が必要になります。
通信基本設定で設定してください。

NTPサーバーの接続に失敗した場合は, エラーメッセージが表示されます。

[5] システム情報

本装置に設定された各項目の概要情報を一覧で確認できます。

1)「システム情報」をクリックします。

システム情報画面

システム基本	
設定詳細表示	ファームウェア更新
機器名称	None
バージョン	1.00A.170114
モデル名	RPO-M005
アウトレット数	4
アウトレット1名称	Outlet1
アウトレット2名称	Outlet2
アウトレット3名称	Outlet3
アウトレット4名称	Outlet4
温度監視動作	
温度アウトレット1名称	
温度アウトレット2名称	
温度アウトレット3名称	
温度アウトレット4名称	
温度アウトレット5名称	
温度アウトレット6名称	
温度アウトレット7名称	
温度アウトレット8名称	
温度アウトレット9名称	
温度アウトレット10名称	
MACアドレス	00:09:EE:00:BC:2B
IPアドレス	192.168.10.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	
NTPサーバーアドレス	[None]
HTTP機能	有効
HTTPポート	80
TELNET機能	有効
TELNETポート	23
LAN伝送速度	1000Mbps
RS-232C 通信速度	38400bps
RS-232C キャラクター長	8 bits
RS-232C ストップビット	1 bit(s)
RS-232C パリティ	None

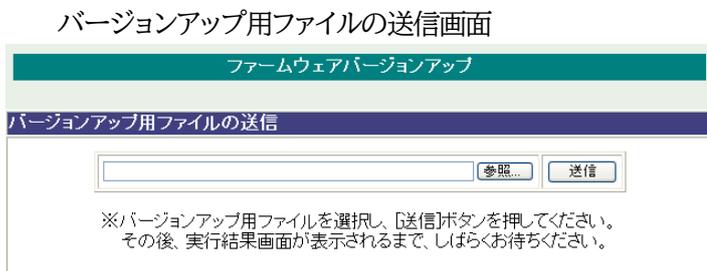
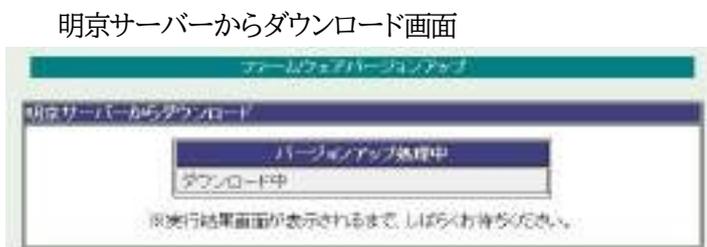
(1) 設定詳細表示

- 1) 「設定詳細表示」をクリックします。
- 2) WEB画面に全変数が表示されます。

(2) ファームウェア更新

ファームウェア更新は「オンライン(明京サーバー)自動アップデート」か「ローカルファイルの選択」からバージョンアップ方法の選択をし、実行します。

- 1) 「ファームウェア更新」をクリックします。
- 2) バージョンアップ方法の選択画面が表示されます。



画面の指示に従って実行してください。

実行後、バージョンアップ結果の画面が表示されます。

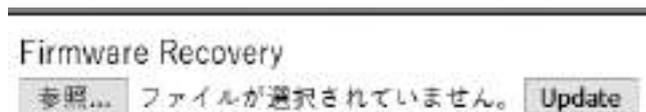
バージョンアップ結果画面



注意 バージョンアップ機能の制御については「第4章 Webブラウザでの設定, 制御」の「セキュリティ詳細設定」をご確認ください

- バージョンアップ実施中に通信途絶などで仮に失敗しても、通信回復時に「Firmware Recovery」画面からvupファイルを再びアップロードすることで、バージョンアップを正常に完了させることができます。なお、正常に完了するまで、絶対に初期化なさらないでください。（初期化すると正常稼働しなくなります。）（vupファイルは <https://www.meikyo.co.jp/archive/> の【アップデート(ファームウェア&ソフトウェア)】の各機種項目から入手可能です。）

【「Firmware Recovery」画面】



★「Update」押下後、しばらくお待ちください。

1分以上しても表示が変わらなければ、本体RESETボタンを押して再び実行してください。（初期化はしないでください）

完了すると「Firmware update has completed successfully.」が表示されます。

[6] PING送信

本装置からのPING送信の確認できます。

- 1)「PING送信」をクリックします。

PING送信画面



- ① 「測定先アドレスを指定してください。」の欄に、測定先アドレスを入力し、「PING確認」をクリックして下さい。
- ② 測定中は「測定中」の表示がされます。
- ③ 測定結果が表示されます。

正常 :Reply from xxx.xxx.xxx.xxx --- time=yyymms
xxx.xxx.xxx.xxx :測定先アドレス
yyy :応答時間(ミリ秒)

異常 :Request timed out.
応答が異常時

異常 :Domain name not found.
ドメイン名が存在しない

[7] 簡易説明

本装置の簡易説明が確認できます。

「簡易説明」をクリックします。

簡易説明画面



メールorWEBコマンド制御

 メールからの制御

 メールを利用して電源制御

WEBからダイレクトコマンド制御

 WEBコマンドでの制御方法

 利用可能コマンド

制御コマンド一覧表

3. 状態表示項目

[1] 簡易情報表示

現在の本装置の電源情報, 温度状態を表示します。

- 1) 「簡易情報表示」をクリックします。

簡易情報表示画面

No.	アウトレット名称	監視	電源
1	Outlet1		ON
2	Outlet2		ON
3	Outlet3		ON
4	Outlet4		ON

温度状態
2017/01/12 20:58:34
24.5°C
正常
2017/01/11 09:46
MAX 29.30 °C
2017/01/12 05:37
MIN 17.40 °C

機器情報
機器名称 Noname

注意 簡易情報表示は現在の本装置の状態を表示する画面で実際に制御することは出来ません。

温度センサーを「有効」に設定しないと温度状態は表示されません。

- 温度センサーを接続せずに、温度センサーの項目を「有効」にすると「0.0°C」の計測になります。
- NTPサーバーの設定をしたり、「PCと時刻同期」を実行したりすると、「温度状態」の部分に年月日 時刻が表示されます。それらの設定をしなかった場合は、「機器の通電経過秒数」が表示されます。

[2] 監視状態表示

現在の本装置の監視状態を表示します。

- 1) 「監視状態表示」をクリックします。

監視状態表示画面

監視状態表示
更新

▲ アウトレット監視状態 / 判定条件

No.	電話	死活判定 遅延判定	実行数 観有遅延	送信数 動作設定	無応答 警報遅延	封鎖数 注意遅延	動作 Hys温度
1	100	正常	0	10	10	1	無動作
2	100	正常	0	10	10	1	無動作
3	100	正常	0	10	10	1	無動作
4	100	正常	0	10	10	1	無動作

▲ アウトレット番号

監視先状態

No.	監視先1		監視先2		監視先3		監視先4	
	状態	無応答数	状態	無応答数	状態	無応答数	状態	無応答数
1								
2								
3								
4								

▲ アウトレット番号

PING応答時間

No.	監視先1	監視先2	監視先3	監視先4
	応答時間	応答時間	応答時間	応答時間
1				
2				
3				
4				

▲ アウトレット番号

ハートビート状態

No.	動作	実行数	パケット数
1	無動作	0	ハートビート確認
2	無動作	0	
3	無動作	0	
4	無動作	0	

▲ アウトレット番号

監視情報

メール受信確認回数

① アウトレット監視状態/判定条件

電源	:	電源の状態を表示します。
死活判定	:	「PING監視」および「メールサーバー監視」の判定結果を表示します。 正常: 異常な監視先が対象数未満, かつメールサーバー正常。 異常: 異常な監視先が対象数以上, またはメールサーバー異常。 回復中: 動作後, 異常な監視先が対象数未満だが, 異常な監視先が残っている。メールサーバー正常。
温度判定	:	「温度監視」の判断結果を表示します。
実行数	:	「PING監視」と「メールサーバー監視」の実行された動作の回数を表示します。
現在温度	:	「温度監視」の現在温度を表示します。
送信数	:	「PING監視」のPING送信回数の設定値を表示します。
動作設定	:	「温度監視」の動作設定を表示します。
無応答	:	「PING監視」の無応答回数の設定値を表示します。
警報温度	:	「温度監視」の警報温度を表示します。
対象数	:	「PING監視」の対象数の設定値を表示します。
注意温度	:	「温度監視」の注意温度を表示します。
動作	:	「PING監視」と「メールサーバー監視」の動作を表示します。
Hys温度	:	「温度監視」のヒステリシス温度を表示します。

② 監視先状態

状態	:	アウトレット毎に各監視先の応答状態を表示します。
無応答数	:	ICMPエコー要求送信に対する無応答回数を表示します。

③ PING応答時間

応答時間	:	監視先の応答時間を表示します。
------	---	-----------------

④ ハートビート状態

動作	:	動作状態を表示します。
実行数	:	実行数を表示します。
パケット状態	:	パケット状態を表示します。

⑤ 機器情報

メール受信接続障害回数	:	メール受信サーバーへの接続障害回数を表示します。
-------------	---	--------------------------

[3] イベントログ表示

現在までのイベントログを表示します。

- 1)「イベントログ表示」をクリックします。

イベントログ表示画面



- 2)「更新」を押すと最新状態に更新します。

前ページ	:	前ページを表示します。
次ページ	:	次ページを表示します。
先頭ページ	:	先頭ページを表示します。
最終ページ	:	最終ページを表示します。
全ログクリア	:	ログを消去します。
TEXT表示	:	WEB画面にイベントログを表示します。

注意 1ページは100項目単位で表示します。
最大10ページ, 1000項目のログを表示可能です。

4. 電源制御

本装置に接続されたデバイスの電源制御をします。

[1] 電源制御

1) 「電源制御」をクリックします。



① 電源

現在の電源の状態を表します。

② 個別アウトレット制御の動作

電源ON : 電源出力を開始します。
 電源OFF : 電源出力を停止します。
 リポート : 電源出力をOFF→ONします。

③ 全アウトレット制御の動作

電源ON : 全アウトレットの電源出力を開始します。
 電源OFF : 全アウトレットの電源出力を停止します。
 リポート : 全アウトレットの電源出力をOFF→ONします。

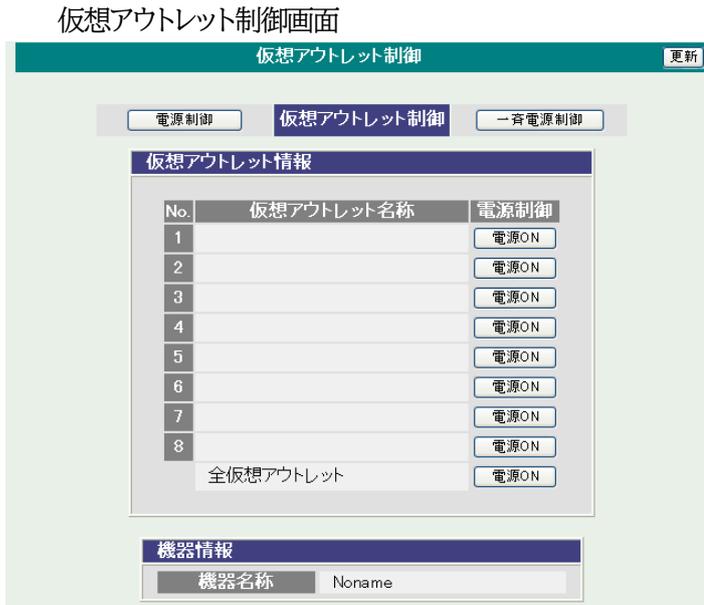
2) 「更新」をクリックすると最新の電源状態を取得します。

注意 電源制御画面は「通信設定」の「WEB自動更新間隔」に基づき(「WEB自動更新機能」が「無効」になっていたとしても)常時自動で更新されます。

注意 「更新」をクリックしないと画面表示とアウトレットが違う場合がありますので電源状態は「更新」をクリックして最新の状態を確認してください。
全アウトレットONの時, 個別アウトレットは1秒の遅延間隔でONします。(デフォルト)

[2] 仮想アウトレット制御

1)「仮想アウトレット制御」をクリックします。



仮想アウトレットについて

仮想アウトレットとは, 実際には存在しないアウトレットであり, 関連付けされたMACアドレスへマジックパケットを送出して, WakeOnLAN機能を実現させるためのものです。

注意 本製品の仕様で, 本体主電源投入時に「全仮想アウトレットON」のコマンドが発報されます。(「イベントログ」記録開始前に実行されるため, ログには記録されずに実行されます。)

① 個別仮想アウトレット制御の動作

電源ON : マジックパケットを送出します。

② 全仮想アウトレット制御の動作

電源ON : 全仮想アウトレットへマジックパケットを送出します。

[3] 一斉電源制御

1)「一斉電源制御」をクリックします。



一斉電源制御

一斉電源制御とは、複数の本装置を最大8グループに分けて、各グループ単位で一斉制御コマンドを送り、電源を制御することが出来ます。

制御対象	:	制御するグループを選択します。
動作	:	実行する動作 電源ON 電源OFF リポート
送信	:	一斉制御コマンドを送信します。

★本装置を、**一斉電源制御を受け付ける状態**に設定したい場合はメンテナンスモード(DIPスイッチ3がON)にてグループ設定をする必要があります。(一斉電源制御を受け付ける状態になると、WEB画面での操作はできなくなります。TELNET通信もしくはシリアル通信においてSupervisor権限でのログインは可能です。)設定方法は本書の第3章3.をご覧ください。

注意 「更新」をクリックしないと画面表示とアウトレットが違う場合がありますので電源状態は「更新」をクリックして最新の状態を確認してください。

全アウトレットONの時、個別アウトレットは1秒の遅延間隔でONします。(デフォルト)

リポートのOFF時間は10秒です。(デフォルト)

遅延時間, OFF時間及びOFF禁止などの設定は変数の変更により可能です。

5. CPUリセット

本装置の設定変更を有効にします。

- 1)「CPUリセット」をクリックします。

CPUリセット画面



- 2)CPUリセット画面の「CPUリセット」をクリックします。

注意

CPUリセットを必要とする内容の場合、「設定項目」の「CPUリセット」の背景色が黄色になります。

「CPUリセット」をクリックすると設定した内容が有効になり、通信が切断されますが、アウトレットの状態は現状のまま保持されます。

第5章 その他の設定

1. TELNETによる設定

[1] 設定方法

- 1)「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。
「初期設定」で設定したIPアドレスを以下のように指定し、本装置にアクセスします。

192.168.10.1の場合

IPアドレス : 192.168.10.1
TELNETポート番号 : 23

「telnet_192.168.10.1_23」

※_はスペースを表します。

- 2)プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。
「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

```
220 RPC-M5CS (Noname) server ready
```

- 3)任意のキーを入力します。IDとパスワードが要求されます。
4)ユーザーID(デフォルト:admin)とパスワード(デフォルト:magic)を入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。

注意 ブラウザ接続時のIDとパスワードはTELNETとシリアル接続時のIDとパスワードとは別になります。
デフォルトのままですとセキュリティホールになる危険があります。
★コマンド(ID, PASS)により変更して利用することをおすすめします。

注意 電源制御可能な他のユーザー(Admin, Control権限)がWEB, TELNET, シリアルいずれかでログイン中の場合、当該方法にて新たにログインすることはできません。
ただし, supervisor権限ではログインすることが可能です。

[2] TELNETコマンドによる設定

- 1) 「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定したIPアドレスを指定し、TELNETで本装置にログインします。
- 2) コマンドや変数などを入力し<Enter>キーで実行します。
(IPアドレスなど一部の設定はCPUリセット後に反映されます。)

■ TELNET通信の設定関係コマンド

コマンド	内 容
LIST	全ての変数の値を表示します。
WRITE	変数の設定をFROMに書き込みます。
&SAVE	設定された変数の待避・復元ができるデータを出力します。
LOAD_BEGIN	設定データの読み込みを始めます。
LOAD_END	設定データの読み込みを終了します。
?変数名	変数の値を表示します。
.変数名=値	変数を設定し、設定された変数を表示します。
CPURESET	CPUをリセットします。(電源状態は変化しません。)

※変数については「**■変数一覧表**」参照

■ 「&SAVE」コマンドについて

環境(変数全体)を一括して待避・復元するためのコマンドです。

「&SAVE」を実行すると、最初に「LOAD_BEGIN」、それに続いて一連の変数設定コマンド、最後に「LOAD_END」をテキストデータとして出力します。このテキストデータを設定データとして保存し、のちに送信しますと、保存した設定になります。TELNET用のパスワードなど、いくつかの変数は保存されませんのでご注意ください。設定データをテキストエディタで変更して利用することもできます。なお、「&SAVE」には、エコーバックがありません。変数設定コマンドでは、エラーがあっても無くても表示しません。長いコマンドは分割されます。(最後にハイフンがあると、次に継続することを意味します。)ファイルからのコマンドを実行するときは、「promptMode」を0または1とします。

■ プロンプトやコマンドについて

TELNETからアクセスしたときは、コマンド入力のプロンプトが表示されます。プロンプト表示の有無または表示形式は、コマンドで指定します。制御ユーティリティでは、常に「>」のプロンプトが表示されます。また、「?」だけのコマンドにより、ヘルプとしてコマンドの一覧を表示します。どのコマンドでも最初に「&」をつけることによりエコーバックが無くなります。設定の取得、書き込みのときは、「promptMode」を0または1とします。

変数名 : promptMode
 値 : 0(プロンプト表示無し)
 : 1(「>」のプロンプト表示)
 : 2(「 機器名 > 」のプロンプト表示)

2. ターミナルソフトによる設定

- 1) 本体前面のCOMポートと設定用PCのCOMポートをパソコン用クロスケーブル(Dsub9ピンメス)で接続します。
- 2) ターミナルソフトを起動し、ポート設定をします。

通信速度 : 38400bps
データビット : 8ビット
ストップビット : 1ビット
パリティ : なし
- 3) 任意のキーを入力します。IDとパスワードが要求されます。
- 4) ユーザーID(デフォルト:admin)とパスワード(デフォルト:magic)を入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。
- 5) 設定したいコマンドや変数などを入力し<Enter>キーで実行します。
- 6) 設定内容を有効化します。
「write」コマンドを入力し、<Enter>キーを押します。

注意	電源制御可能な他のユーザー (Admin, Control 権限) が WEB, TELNET, シリアルいずれかでログイン中の場合、当該方法にて新たにログインすることはできません。 ただし、supervisor 権限ではログインすることが可能です。
----	--

- 7) 設定終了後、ターミナルソフトを閉じます。

シリアル通信のコマンドはTELNETと共通です。ただしIDコマンドとPASSコマンドはご利用いただけません。

第6章

その他の制御

1. TELNET接続による制御

本装置はTELNETサーバプログラムへ接続して、遠隔から電源制御および状態取得ができます。セキュリティ制御の設定がされている場合はその制限内での操作となります。

[1] TELNET接続による制御

- 1) 「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定したIPアドレスを以下のように指定し、TELNETで本装置にログインします。

192.168.10.1の場合

IPアドレス : 192.168.10.1

TELNETポート番号 : 23

「telnet_192.168.10.1_23」

※「_」はスペースを表します。

- 2) プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。

「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

```
220 RPC-M5CS (Noname) server ready
```

- 3) 任意のキーを入力します。IDとパスワードが要求されます。

- 4) ユーザーID(デフォルト:admin)とパスワード(デフォルト:magic)を入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。

- 5) 制御コマンドを入力して、< Enter >キーで実行します。

注意 電源制御可能な他のユーザー (Admin, Control 権限) がWEB, TELNET, シリアルなどでログイン中の場合、当該方法にて新たにログインすることはできません。
ただし、supervisor権限ではログインすることが可能です。

■ 応答コマンド

正常受付	: Command OK
不正なコマンド	: Unrecognized command
前コマンドの処理中のため コマンド実行せず	: Last command is pending. Command failed.

2. シリアルからの制御

シリアルポートからコマンド入力で電源制御ができます。

1) 本体前面のCOMポートと設定用PCのCOMポートをパソコン用クロスケーブル(Dsub9ピンメス)で接続します。

2) ターミナルソフトを起動し、ポート設定をします。

通信速度	: 38400bps
データビット	: 8ビット
ストップビット	: 1ビット
パリティ	: なし

3) 任意のキーを入力します。IDとパスワードが要求されます。

4) ユーザーID(デフォルト:admin)とパスワード(デフォルト:magic)を入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。

5) 制御コマンドを入力し<Enter>キーで実行します。コマンドは「1.TELNET接続による制御」と共通です。

※詳しくは「**■ 制御コマンド一覧表**」参照

<p>注意</p> <p>電源制御可能な他のユーザー(Admin, Control権限)がWEB, TELNET, シリアルなどでログイン中の場合、当該方法にて新たにログインすることはできません。 ただし、supervisor権限ではログインすることが可能です。</p>

3. モデムからの制御

モデム経由で電源制御ができます。

- 1) 本装置COMポートを接続するモデムに合わせて設定します。
- 2) 本体前面のCOMポートとモデムをストレートケーブル(Dsub9ピンメス)で接続します。
- 3) 遠隔地のモデムから接続します。
- 4) 接続されるとIDとパスワードが要求されます。(TELNETと共通です。)
- 5) ユーザーID(デフォルト:admin)とパスワード(デフォルト:magic)を入力します。コマンド入力状態になります。
- 6) 制御コマンドを入力し、<Enter>キーで実行します。
コマンドは「1.TELNET接続による制御」と共通です。
※詳しくは「■ 制御コマンド一覧表」参照

注意	モデム制御ではストレートケーブルが必要です。 電源制御可能な他のユーザー(Admin, Control 権限)がWEB, TELNET, シリアルなどでログイン中の場合, 当該方法にて新たにログインすることはできません。 ただし, supervisor 権限ではログインすることが可能です。
-----------	---

4. メールからの制御

メールを利用して電源制御ができます。

メールからのコマンドを利用するには、通信設定ならびにメール設定を正しく行う必要があります。

- 注意
- 「通信設定-メール設定-通知先設定」の**[通知先アドレス]**に設定した**メールアドレスからのみメール制御**できます。
 - HTMLメールではメール制御できません。必ずテキスト形式メール**をご使用ください。

1. 本装置に、**テキスト形式**メールを送信します。

件名(タイトル)は特に必要ありません。

本文1行目に「メール制御ユーザー名」を入力します。

本文2行目に「メール制御パスワード」を入力します。

本文3行目以降にコマンドを入力します。

コマンドを入力し改行を入れます。

●コマンドの「LIST」と「&SAVE」は使えません。

(使えるコマンドは「第10章」■制御コマンド一覧表をご覧ください)

本文最終行に「QUIT」コマンドを入力します。

「Q」または「E」の1文字だけでもログアウトできます。

2. 数分後、本装置から結果を知らせるメールが届きます。

注意

メール制御ユーザー名とパスワードについては「第4章 Webブラウザでの設定, 制御」の「メール設定」をご確認ください。

電源制御可能な他のユーザーがWEBブラウザ, TELNET接続などで、ログイン中の場合、メール制御はできません。**WEBブラウザ, TELNET接続などから必ずログアウトしてから、メール制御を実行**してください。

5. WEBコマンドからの制御

WEBからダイレクトコマンドで電源制御ができます。

WEBコマンドでの制御方法

WEBコマンドは主に電源制御のためのコマンドであり、設定の変更は出来ません。

cmd.htm の後に下記のフォーマットで記入します。

- 「cmd.htm」の部分を「cmdres.htm」にすると、応答がテキスト形式のみになります。

【「HTTP認証」が「None」の場合】

?userid=[ユーザーID] &password=[パスワード] &command= [利用コマンド]

例:)ユーザーID:admin / パスワード:magic / コマンド:por3

http://192.168.10.1/cmd.htm?userid=admin&password=magic&command=por3

(変数名は省略可能です。「userid」→「i」,「password」→「p」,「command」→「c」)

→ http://192.168.10.1/cmd.htm?i=admin&p=magic&c=por3

【「HTTP認証」が「Basic」「Digest」の場合】

?command= [利用コマンド]

例:)コマンド:por3

http://192.168.10.1/cmd.htm?command=por3

(変数名は省略可能です。「userid」→「i」,「password」→「p」,「command」→「c」)

→ http://192.168.10.1/cmd.htm?c=por3

■ダイレクトWEBコマンドでの利用可能コマンド

(第10章 ■制御コマンド一覧表 もご覧ください)

利用可能ユーザーLv[ident control admin supervisor]

VER POS XPOS OLS
OLSn TEMP TOS TOSn
TSP

利用可能ユーザーLv[control admin]

PONn POFn PORn MPON
MPOF MPOR PSRn PONVn
MPONVn

注意 第4章 3. [3](1)<1>機器情報, [4](1)<3>ダイレクトWEBコマンドの各項目を設定してご利用ください。

第7章 ログイン機能

1. ログ機能の設定・表示

デバイスの監視やその他のイベントログを1000件記録します。1000件を超えた場合は古いログから消去し、新しいログを記録します。記録されたログは、コマンドで表示・確認できます。

1) TELNETによる設定と表示

記録モード・表示モードの設定及び記録されたログの表示は、それぞれのコマンドを入力し<Enter>キーで実行します。ログインして制御する方法で操作します。

① 記録モードの変数名とコマンド

変数名 : logMode
コマンド : .logMode

② 表示モードの変数名とコマンド

変数名 : logDisp
コマンド : .logDisp

③ 接続中の表示のみを変更するコマンド

(通信が終了すると「logDisp」の値に戻ります。)

コマンド : LOGDISP

■ ログ制御変数のビット構成

値は最下位を0ビットとし、31ビットの構成になっています。

0:無, 1:有

ビット	ビット
30 : 未使用	14 : モデム接続・切断
29 : 未使用	13 : TELNETログイン・ログアウト
28 : 未使用	12 : TELNET接続・切断
27 : 未使用	11 : Webログイン・ログアウト
26 : 未使用	10 : Web接続
25 : スクリプト実行/失敗	9 : メールログイン・ログアウト
24 : 未使用	8 : メール不正アクセス
23 : 未使用	7 : 未使用
22 : 未使用	6 : 未使用
21 : NTPアクセス	5 : 電源障害等
20 : シリアルログイン・ログアウト	4 : 電源制御コマンド
19 : 未使用	3 : 未使用
18 : 温度状態変化	2 : ping監視によるイベント
17 : 変数設定, write	1 : ping無応答
16 : 未使用	0 : ping送信
15 : モデムログイン・ログアウト	

TELNET通信による設定例

・ping監視によるイベント, 電源制御コマンド, 電源障害のログを記録する場合
 .logMode=0000000000000000000000000000110100

・全て表示する場合
 .logDisp=111111111111111111111111111111111111(デフォルト)

・接続中に「変数設定」だけ表示とする場合
 変数を変更せずにLOGDISPコマンドで表示を変更できます。
 LOGDISP=00000000000010000000000000000000

■ ログ表示コマンド

コマンド	内 容
LOG	ログの表示(連番号順)
LOG n	ログの表示(最新n個)
LOGTIME	e = t ログ開始からの経過秒=現在時刻 e0 = t0 NTP接続までの経過秒=最初の取得時刻 NTP無効の場合はeのみ表示
LOGCLEAR	ログのクリア
LOGCLEAR T	ログのクリア及び記録時間のリセット

ログの表示数は20項目です。
 <Enter>キーで続きの20項目を表示します。

■ ログの表示形式

nnn ttt a b xxxxxxxx c

- nnn : 連番号
- ttt : NTP無効時:記録開始からの時間(秒)
- yy.mm.dd hh:mm:ss : NTP有効時:年月日時分秒
- a : アウトレット番号
- b : PING送信先番号(1~4番)
- xxxxxxx : イベント
- c : IPアドレス

■ 記録ログ一覧表

監視設定に基づくイベント(記録・表示のモード設定があります。)	
Ping	ping送信
No Echo	ping無応答
監視設定(Action)に基づくイベント	
No Action	処理なし
Outlet Reboot	電源リブート
Outlet On	電源ON
Outlet Off	電源OFF
スケジュールの場合は、「by Schedule」と表示されます。	
電源制御によるイベント	
MPON	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	全アウトレットの電源リブート
PON	指定されたアウトレットの電源出力開始
POF	指定されたアウトレットの電源出力停止
POR	指定されたアウトレットの電源リブート
アクセスによるイベント(接続先IDが表示されます。)	
--> Web	Web接続
==> Web	Webログイン
<== Web	Webログアウト(切断)
<-- Web	ログインしないで切断
MAIL, TELNETの接続, ログインなどもこれに準じます	
NTPServerAccessError	NTPサーバー接続エラー (3回続けて失敗した場合)
NTP --- hh:mm:ss	NTPサーバー接続
modeに関係のない表示	
Mail Error	メール送信エラー

第8章

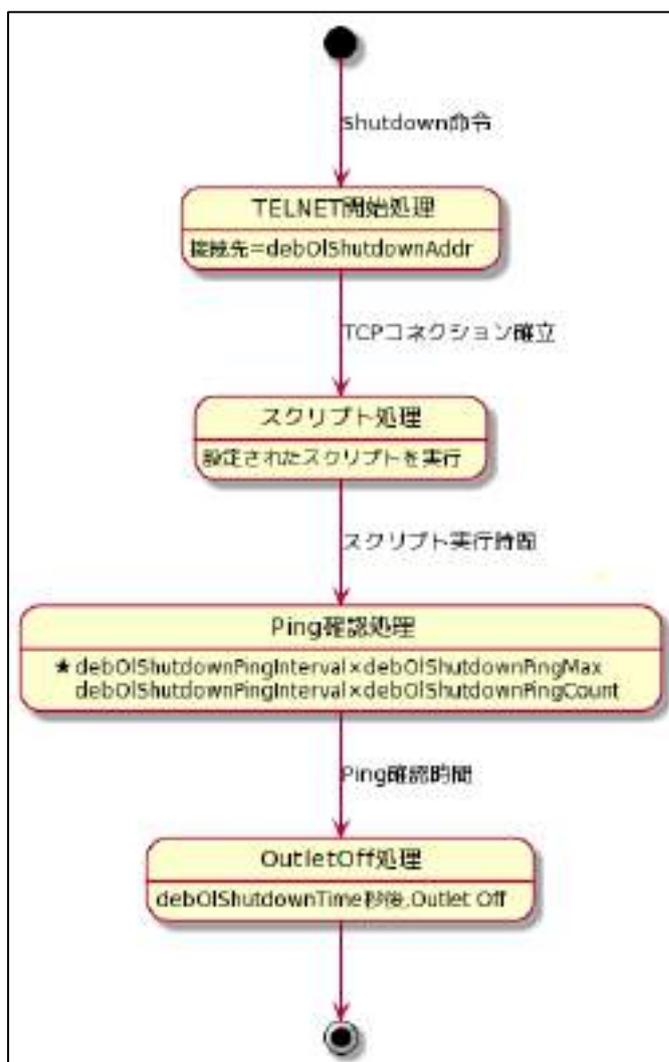
シャットダウン スクリプト

1. スクリプト仕様について

本装置はシャットダウンスクリプトを搭載しています。この機能により、接続された機器を正常にシャットダウンさせて終了させた後で本装置のアウトレットをOFFにすることができます。

[1] スクリプト実行機能の基本動作

- ① アウトレットがOFF命令を受け、シャットダウン遅延中に動作します。OFF命令はコマンド、温度監視、スケジュール、死活監視、ハートビート監視より出されます。(リポートによるOFF時は実行されません。)
- ② 指定のIPアドレス、ポートにTELNET接続を行います。
- ③ 接続後、設定したスクリプトを実行します。スクリプトの終了コードにより電源OFF条件を定めることができます。
- ④ スクリプト実行後、シャットダウンPING実行先を指定しているなら、指定秒数間隔でPING監視を行い、無応答が指定回数[シャットダウンPING回数]に達した、またはICMPエコー要求を指定回数[シャットダウンPING最大送信数]発信した時、PING応答確認を終了します。([6]参照)
- ⑤ アウトレットOFF処理を開始します。(OFF遅延時間経過後、OFFにします)



[2] 設定

(第1章2.[1](2)<1>[1]シャットダウンスクリプト設定をご参照ください。ブラウザから設定できます。) 本機をTELNET接続, シリアルポートからターミナルソフトにて下記の項目を設定してください。(アウトレットごとに以下の設定をします。)

IPアドレス	:	debOlShutdownAddr
Port番号	:	debOlShutdownPort 0を指定すると, 23と見なします。
スクリプト番号	:	debOlShutdownScript
スクリプトの有効/無効	:	debOlShutdownEnabled
サーバー名(ID)	:	debOlShutdownName
パスワード	:	debOlShutdownPassword
PING実行先	:	debOlShutdownPingAddr PINGでシャットダウン終了を確認します。 IPアドレスまたはドメイン名を設定します。
PING間隔	:	debOlShutdownPingInterval
PING回数	:	debOlShutdownPingCount
PING限度	:	debOlShutdownPingMax
電源OFF条件	:	debOlShutdownOffMax

[3] ログ

- ① スクリプトの成功または失敗をログと変数に残します。
変数はdebOlShutdownExitとdebOlShutdownMsg
この変数の値は保存されます。

[4] テキスト仕様

- ① 条件
- ・ テキストサイズは, 2Kbyteまでです。
 - ・ テキスト行数は250行までです。
 - ・ テキストの第1行は, TELNETとします。
 - ・ 行の先頭やパラメータの区切りに任意個のタブや空白を入れてもかまいません。
 - ・ スクリプト関数は大文字でも小文字でも可能です。
 - ・ 2バイト文字にも対応しています。
- ② スクリプト関数詳細
- | | | |
|------------|---|--|
| 文字列 | : | 二重引用符「”」で囲みます。
CRコードは ¥r LFコードは ¥n で表します。
また, 1個の ¥は ¥¥ 1個の ”は ¥”で表します。
制御コード等は ¥xnn nnは2桁の16進数で表します。
(長さは最大63バイト) |
| timeout 時間 | : | 単位 (秒) スクリプトタイムアウト
最大1023(秒)(スクリプト例は600秒)
時間が来たら強制的にスクリプトを終了します。
(終了コードは255) |

delay 時間	:	単位100ミリ (秒) , 一時停止, 最大1023
goto ラベル	:	指定ラベルに飛びます。
ラベル	:	ラベルは1~99 行の残りにはコメントしか書くことはできません。
exit 終了コード	:	スクリプト終了 終了コードは0~255。省略は0 変数debOlShutdownExitに設定されます。
send 文字列	:	文字列を送信します。
recv	:	データを受信バッファに受信します。
recv 時間 goto ラベル	:	データを受信バッファに受信します。時間単位 (秒) 時間内に受信できなければラベルに飛びます。
recv 時間 exit 終了コード	:	
if 文字列 goto ラベル	:	受信バッファに文字列があればラベルに飛びます。
if 文字列 exit 終了コード	:	受信バッファに文字列があれば終了します。
unless 文字列 goto ラベル	:	受信バッファに文字列が無ければラベルに飛びます。
unless 文字列 exit 終了コード	:	
/	:	コメント 各文の終わりにも / を置いてコメントを書くことができます。
set 文字列	:	メッセージ変数debOlShutdownMsgに文字列を入れます。
sendname	:	サーバー名(ID)をCRコードつきで送信します。
sendpassword	:	パスワードをCRコードつきで送信します。

③ スクリプト例(Wiindows用)

```

TELNET
//強制タイムアウト時間 600秒
timeout 600
//ユーザーログイン, パスワード確認
1:
recv 30 exit 91
unless "login:" goto 1
sendname
2:
recv 30 exit 92
unless "password:" goto 2
sendpassword
3:
recv
unless ">" goto 3

//シャットダウンコマンド送信
send "shutdown /s¥r"
4:
recv
unless ">" goto 4
send "exit¥r"
exit

```

④ スクリプト入力

SCRIPTコマンドで始めます。

SCRIPT 番号

番号は1~4

ENDSCRIPTコマンドで終わります。

変数script1~script4に格納します。コメントや余分のタブ・空白は格納しません。

エラーがある場合は、エラーを表示し、格納しません。

[5] エラー処理

スクリプト実行時にエラーが生じた時、下記のエラーコードで終了します。

1~252 : ユーザーが定義可能なエラーコード

スクリプト関数を利用して、独自のエラーコードを定めることができます。

253 : ログインエラー

TELNETでの接続はできたが、IDもしくはパスワードが異なっていた。

254 : 接続エラー

TELNETでの接続ができなかった。

255 : タイムアウトエラー

スクリプト実行中にtimeoutコマンドで設定した時間が経過してしまった。

注意

ログインは管理者権限で行う必要があります。

シャットダウンされる側のパソコンは、TELNETサーバー機能が有効になっている必要があります。

弊社のホームページで公開している「MRCシャットダウンSV」をご利用いただくことも可能です。(https://www.meikyo.co.jp/archive/)

[6] PING確認について

スクリプト実行が終了すると、終了コードが何であってもPING確認を実行します。

PING確認では、PING実行先が指定されていれば、指定間隔でPINGを送信します。

PING回数だけ連続して未応答の場合、PING確認を終了します。

PING限度だけ送信すると、PING確認を終了します。

PING実行先が指定されていなければ、すぐにPING確認を終了します。

PING確認を終了すると、debOlShutdownTimeの遅延後にアウトレットの電源をOFFします。

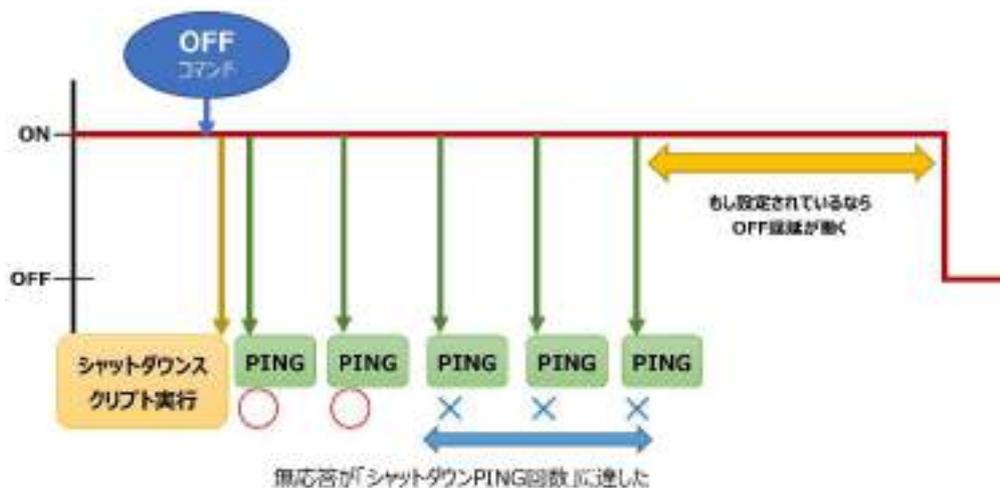
●シャットダウンPING監視先が設定されている場合の流れ

次のような設定をしている場合

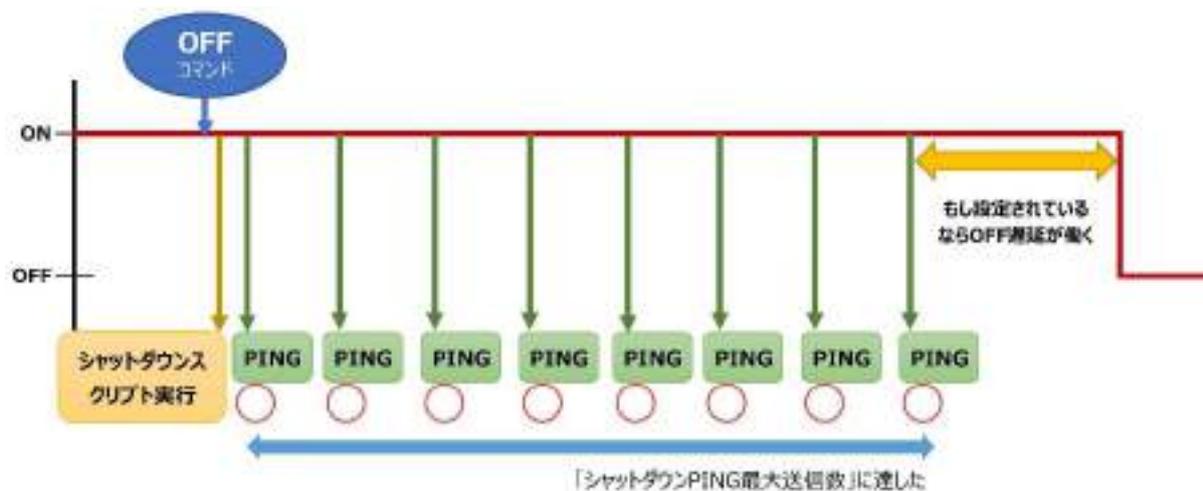
シャットダウンPingアドレス	192.168.1.90
シャットダウンPing間隔	5
シャットダウンPing回数	3
シャットダウンPing最大送信数	8

(シャットダウンしたいPCのIPアドレスが192.168.1.90だとします)

◆PCが安全にシャットダウンでき、PING監視が無応答になった場合



◆PING監視に対して応答がある場合



第9章
SNMPについて

1. SNMPについて

本装置はSNMPエージェント機能を装備しています。SNMPマネージャを利用して、ネットワークシステムの電源管理を行うことができます。

●SNMPでは電源制御は行えません。

2. 機器設定

本装置をTELNET接続にて下記の項目を設定してください。「その他の制御」を参照してください。

- | | |
|--------------------------|--|
| ① SNMPのSET, GET有効化 | |
| 変数 | : snmpGetSetEnabled |
| デフォルト | : 0
(0:無効 1:有効) |
| ② SNMP TRAPの有効化 | |
| 変数 | : snmpTrapEnabled |
| デフォルト | : 0
(0:無効 1:有効) |
| ③ SNMP不正アクセス時の
TRAP通知 | |
| 変数 | : snmpAuthenTrapEnabled |
| デフォルト | : 2
(1:有効 2:無効) |
| ④ TRAP送信回数 | |
| 変数 | : snmpTrapSendN |
| デフォルト | : 1
(1~9) |
| ⑤ TRAP送信間隔(秒) | |
| 変数 | : snmpTrapSendInterval |
| デフォルト | : 1
(1~9) |
| ⑥ TRAP送信先アドレス | |
| 変数 | : snmpTrapAddr |
| デフォルト | : 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0
(8箇所) |

- ⑦ SNMP用フィルターの有効化
変数 : snmpFilterEnabled
デフォルト : 0
(0:無効 1:有効)
- ⑧ フィルター有効時許可するアドレス
変数 : snmpFilterAddr
デフォルト : 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
0.0.0.0,0.0.0.0
(10箇所)
- ⑨ フィルター有効時のMask
変数 : snmpFilterEnabled
デフォルト : 255.255.255.255,255.255.255.255,
255.255.255.255,255.255.255.255,
255.255.255.255,255.255.255.255,
255.255.255.255,255.255.255.255,
255.255.255.255,255.255.255.255
(10箇所)
- ⑩ SNMP GETコミュニティ名
変数 : getCommunity
デフォルト : Public
- ⑪ SNMP SETコミュニティ名
変数 : setCommunity
デフォルト : Public
- ⑫ SNMP TRAPコミュニティ名
変数 : trapCommunity
デフォルト : Public

3. MIBについて

本機を管理するためのプライベートMIBを準備しています。

当社ホームページ(<https://www.meikyo.co.jp/download/>)よりMEIKYO.MIBをダウンロードしご利用ください。

プライベートMIBファイルをNMSにロード・コンパイルすることにより、本機の管理をNMS上で行うことができます。

注意	MIBのロード・コンパイル使用方法についての詳細は、ご利用されるNMSのマニュアルを参照してください。
----	---

第10章
ネットワーク
稼動監視

1. 機器設定

本装置からUDPのパケットを送出し、電源状態を通知することができます。

「RPC EYE V4」「RPC EYE V4 Pro」(オプション 有償ソフトウェア)を利用すれば、各機器からのパケットを受信し一元管理することができます。

下記の変数を設定してください。(①～④はWEB通信詳細画面により設定できます)

① 状態通知機能

変数	:	msrpEnabled
デフォルト	:	0

(0:無効 1:有効)

RPC EYE V4を使用するパソコンのアドレスを設定します。

② 送信先アドレス

変数	:	ipAdCenter
デフォルト	:	0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0

(3箇所)

RPC EYE V4を使用するパソコンのポート番号を設定します。

③ ポート番号

変数	:	centerPort
デフォルト	:	5000

情報を通知する間隔を設定します。

④ 定期通知の送信間隔(秒)

変数	:	centerSendTimer
デフォルト	:	300

電源変化時は、定期通知間隔を待たず直ちに通知します。その時の通知回数を設定します。

⑤ 電源変化時の通知回数

変数	:	centerChangeSendCount
デフォルト	:	3

電源変化時の通知の2回目以降の通知間隔を設定します。

⑥ 電源変化時の通知間隔(秒)

変数	:	centerChangeSendTimer
デフォルト	:	10

2. RPC EYE V4の利用

RPC EYE V4は、RPCシリーズからの送信情報を利用して、各拠点のネットワークの稼働状態をリアルタイムで監視するネットワーク稼働監視ソフトです。

以下の特長があります。

- ・死活監視 温度状態 電源状態の表示と監視
- ・アイコンによるビジュアルな状態表示
- ・リアルタイムに見れる詳細な情報ビューア
- ・温度状態のグラフによる表示
- ・受信情報のデータ保存(CSV形式)
- ・状態変化時にE-MAILまたは音による通知機能
- ・個別の機器への接続機能(HTML or TELNET)
- ・1本のソフトでPC3台まで利用できます。
- ・(PRO版)グループ単位での設定書き込み
- ・(PRO版)グループ電源制御

詳細、購入方法等は下記のアドレスで確認ください。

<https://www.meikyo.co.jp/download/>

設定前の確認

設定用PCと本装置をLANで確実に接続してください。

RPC EYE V4をPCにインストールしてください。

RPC EYE V4はWindows対応ソフトです。

RPC EYE V4の設定、利用方法は、RPC EYE V4説明書(PDFファイル)をご覧ください。

第11章
仕様一覧

■変数一覧表

変数名	初期値	内容	備考
ipAdEntAddr	192.168.10.1	IPアドレス	
ifPhysAddress	(機器毎)	MACアドレス(ReadOnly)	
serialNo		未使用	
sysName	Noname	機器名称	全角9文字 半角19文字以内
snmpGetSetEnabled	0	SNMPのSET, GETの有効化	0:無効 1:有効
snmpTrapEnabled	0	SNMP TRAPの有効化	0:無効 1:有効
snmpAuthenTrapEnabled	2	SNMP不正アクセス時のTRAP通知	1:有効 2:無効
snmpTrapSendN	1	TRAP送信回数	1~9
snmpTrapSendInterval	1	TRAP送信間隔(秒)	1~9
snmpTrapAddr		TRAP送信先アドレス	"," 区切りで8箇所まで
snmpFilterEnabled	0	SNMP用フィルターの有効化	0:無効 1:有効
snmpFilterAddr		SNMP用フィルター有効時許可するアドレス	"," 区切りで10箇所まで
snmpFilterMask	255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	SNMP用フィルター有効時のMask	10箇所
getCommunity	public	SNMP GETコミュニティ名	半角20文字以内
setCommunity	public	SNMP SETコミュニティ名	半角20文字以内
trapCommunity	public	SNMP TRAPコミュニティ名	半角20文字以内
sysDescr	*1文字列	(ReadOnly)	
sysContact	form@meikyo.co.jp	連絡先	
sysLocation	Nowhere	設置場所	全角31文字 半角63文字以内
ifDescr	*2文字列	(ReadOnly)	
ipAdEntNetMask	255.255.255.0	ネットマスク	
ipRouteDest		デフォルトゲートウェイ	
netBootpRetry	0	BOOTPリトライ回数	
netRarpRetry	0	RARPリトライ回数	
telnetEnabled	0	TELNETの有効化	0:無効 1:有効
telnetPort	23	TELNETのポート番号	
rshdEnabled	0	リモートシェル(rsh)設定	0:無効 1:有効
rshdPort	514	リモートシェル(rsh)に使用する着信ポート	
rshErrPort	1000	リモートシェル(rsh)に使用するエラーポート	
utilityPort	9000	UTYのポート番号	
fileLoadPort	9200	HTMLファイルをロードするポート	
httpEnabled	1	HTTPの有効化	0:無効 1:有効
httpPort	80	HTTPのポート番号	
httpRefreshInterval	30	HTTP自動更新間隔(秒)	
httpRefreshEnabled	0	HTTP自動更新の有効化	0:無効 1:有効
httpCommandEnabled	0	HTTPコマンドの有効化	0:無効 1:有効
dhcpEnabled	0	DHCPの有効化	0:無効 1:有効

ipFilterEnabled	0	IPフィルタの有効化	0:無効 1:有効
ipFilterAddr	192.168.10.0	IPフィルタアドレス	"," 区切りで10箇所まで
ipFilterMask	255.255.255.0, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	IPフィルタマスク	10箇所
model	RPC-M5CS	モデル名(ReadOnly)	
com1Speed	3	シリアル通信速度	1:9600Bps 2:19200Bps 3:38400Bps
com1DataBits	8	シリアル通信ビット	7,8
com1StopBits	1	シリアル通信ストップビット	1,2
com1Parity	0	シリアル通信パリティ	0:無 1:奇 2:偶
version		バージョン表示(ReadOnly)	
debTcpInactiveTimer	10	TELNET通信時の無通信タイマ(分)	
autoLogoutEnabled	1	自動ログアウト監視の有効化	0:無効 1:有効
userLoginTimeout	600	HTTP自動ログアウト時間	30~30000
debMasterRebootTime	10	全アウトレットリブート時のOFF時間(秒)	8~3600
debOIMaster	1,2,3,4	各アウトレットの連動設定	左→右 1→4アウトレット デフォルト時、連動無し
debOIPowerOnTime	1,2,3,4	各アウトレットのON時間	左→右 1→4アウトレット -1~3600
debOIPowerOnSTime	1,2,3,4	本体起動時に適用する電源出力 ON遅延時間(単位:秒)	左→右 1→4アウトレット -1~3600
debOIPowerOnTTime	0,0,0,0	スケジュールに適用する電源出力 ON遅延時間(単位:秒)	左→右 1→4アウトレット 0~3600
debOIShutdownTime	0,0,0,0	各アウトレットのOFF時間	左→右 1→4アウトレット -1~3600
debOIRebootTime	10,10,10,10	各アウトレットのREBOOT時間	左→右 1→4アウトレット 8~3600
debOIWdogAddr		監視先IPアドレス	左→右 1→4アウトレット "," 区切りで4箇所まで
debOIWdogSendMax	10,10,10,10	PING監視 送信回数	左→右 1→4アウトレット 1~100
debOIWdogNoResMax	10,10,10,10	PING監視 無応答回数	左→右 1→4アウトレット 1~100
debOIWdogActCond	1,1,1,1	PING監視 監視対象数	左→右 1→4アウトレット 1~4
debOIWdogAction	0,0,0,0	PING監視 Action	左→右 1→4アウトレット 0:無動作 1:ログのみ 2:リブート 3:ON 4:OFF
debOIWdogActCount	0,0,0,0	PING監視 Action回数(ReadOnly)	左→右 1→4アウトレット
debOIWdogStatus	0,0,0,0	PING監視判断(ReadOnly)	左→右 1→4アウトレット 0:未設定 1:正常 2:異常 3:回復中
debOIRebootCount	1,1,1,1	PING監視 再Reboot回数	左→右 1→4アウトレット 1~100
debOIRebootInterval	1,1,1,1	PING監視 再Reboot間隔(分)	左→右 1→4アウトレット 1~60
debOIActionLimit	0,0,0,0	PING監視 異常時の1時間ごとに繰り返す リブート回数	左→右 1→4アウトレット 0:無制限

debOlRecvErrorMax	0,0,0,0	メールサーバー監視 接続障害回数	左→右 1→4アウトレット 0:機能無効
debOlWdogLastStatus	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	PING監視 最終応答(ReadOnly)	左→右 1→4アウトレット 0:未設定 1:正常 2:異常 ","区切りでアウトレット×4
debOlWdogDefGateway	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	PING監視 デフォルトゲートウェイ	左→右 1→4アウトレット 0:無効 1:有効 ","区切りでアウトレット×4
debOlNoResCount	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	PING監視 無応答回数(ReadOnly)	左→右 1→4アウトレット ","区切りでアウトレット×4
debOlRespTime	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	PING監視 IPアドレスからの応答時間 (ms)	左→右 1→4アウトレット 0:未設定 1:PING応答の最小値 ","区切りでアウトレット×4
debOlActionMax	12	PING監視 異常回数	
debOlNoEchoInterval	5	PING監視 無応答検出時間(秒)	5~60
debOlPingInterval	1	PING監視 送信間隔(分)	1~60
pingInterval2	0,0,0,0	PING監視 送信間隔個毎(分)	左→右 1→4アウトレット 0~60 0:未設定
debOlName	Outlet1,Outlet2, Outlet3,Outlet4	アウトレット名	全角10文字 半角20文字以内
debOlNameV		仮想アウトレットの名称	全角10文字 半角20文字以内
debOlPowerOnTimeV	0,0,0,0,0,0,0,0	仮想アウトレット用のON遅延時間	左→右 1→8アウトレット -1~3600
errorN	0	シャットダウンスクリプト中の検出エラー数	
debOlShutdownAddr		シャットダウンスクリプトの IPアドレス	
debOlShutdownPort	0,0,0,0	シャットダウンスクリプトのPort番号	
debOlShutdownScript	1,1,1,1	シャットダウンスクリプトのスクリプト番号	
debOlShutdownEnabled	0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの有効化	0:無効 1:有効
debOlShutdownName		シャットダウンスクリプトのサーバー名 (ID)	半角16字以内
debOlShutdownPassword		シャットダウンスクリプトのパスワード	半角16字以内
debOlShutdownMsg		シャットダウンスクリプトの成功, 失敗ログ	
debOlShutdownExit	0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの成功, 失敗変数	
debOlShutdownPingAddr		シャットダウンスクリプトのPING実行先	
debOlShutdownPingInterval	0,0,0,0	シャットダウンスクリプトのPING間隔	
debOlShutdownPingCount	0,0,0,0	シャットダウンスクリプトのPING回数	
debOlShutdownPingMax	0,0,0,0	シャットダウンスクリプトPING限度	
debOlShutdownDebug	0	シャットダウンスクリプトのエラー処理	0:無効 1:有効
debOlShutdownOffMax	255	シャットダウンスクリプトの電源OFF制限	
debOlControlActivated	0	電源制御制限同意フラグ	0:非同意 1:同意
tempEnabled	0	温度監視の有効化	0:無効 1:有効
tempTestMode	0	温度テストモードの有効化	0:無効 1:有効
tempSimMode	0	温度シミュレーションモード	0:無効 1:有効
tempLowerA	-5	下限警報閾値	小数点以下は0.25の倍数となる。
tempLowerW	0	下限注意閾値	
tempLowerH	2	下限ヒステリシス	
tempLowerOff	1	低温アウトレット解除	0:無効 1:有効
tempUpperA	45	上限警報閾値	小数点以下は0.25の倍数となる。
tempUpperW	35	上限注意閾値	
tempUpperH	2	上限ヒステリシス	
tempUpperOff	1	高温アウトレット解除	0:無効 1:有効

tempOlControl	0,0,0,0	温度によるアウトレット動作	0:無効 1:上限警報ON 2:下限警報ON 3:上限警報OFF 4:下限警報OFF
tempStatus		温度状態	0:正常 1:上限注意 2:上限警報 3:下限注意 4:下限警報
tempActionStatus	0	温度による動作状態	0:正常(解除済) 1:上限警報実行 2:下限警報実行
tempDegree		温度測定値(℃)	小数点第二位まで表示
tempMaxDegree		最高温度	
tempMinDegree		最低温度	
tempMaxDegreeTime		最高温度記録時間	
tempMinDegreeTime		最低温度記録時間	
schEnabled	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュールの有効化	0:無効 1:有効
schDay	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュール曜日(全20個)	0:毎日 1:日 2:月 3:火 4:水 5:木 6:金 7:土
schHour	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュール時間(全20個)	0~23
schMinute	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュール分(全20個)	0~59
schOutletNo	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュールアウトレット(全20個)	0:全アウトレット 1~4アウトレットNo 100:全仮想アウトレット 101~108:仮想アウトレット1~8
schAction	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュールアクション(全20個)	0:無動作 1:リブート 2:電源ON 3:電源OFF 4:定時メール
ipAdDnsServer		DNSサーバーアドレス	
mailUserName		メール ユーザー名	半角63文字以内
mailPassword		メール パスワード	半角40文字以内
mailCommandLoginName		メール コマンドユーザ名	半角63文字以内
mailCommandPassword		メール コマンドパスワード	半角63文字以内
mailLastEvent		最新のイベント内容を保管	
mailContent	sysName, sysLocation, ipAdEntAddr, ifPhysAddress, mailExtraMsg1, mailLastEvent	通知メールの内容	最大8パターンまで SysName/sysLocation/ipAdEntAddr IfPhysAddress/mailLastEvent mailExtraMsg1/mailExtraMsg2 mailExtraMsg3”
mailAddr		メールアドレス	
mailExtAddr		送信先メールアドレス	24アドレス
mailInfoFlag	1.1.1.1.1.1.1.1, 1.1.1.1.1.1.1.1, 1.1.1.1.1.1.1.1, 0.0.0.0.0.0.0.0, 0.0.0.0.0.0.0.0, 0.0.0.0.0.0.0.0, 0.0.0.0.0.0.0.0,	PING監視 メール送信有効化 コンマ区切りで表示。 イベント テスト 宛先タイプ TO 8アドレス分 イベント テスト 宛先タイプ CC 8アドレス分 イベント テスト 宛先タイプ BCC 8アドレス分 イベント PING 宛先タイプ TO 8アドレス分 イベント PING 宛先タイプ CC 8アドレス分 イベント PING 宛先タイプ BCC 8アドレス分 イベント 温度 宛先タイプ TO 8アドレス分	0:無効 1:有効

	0.0.0.0.0.0.0.0,	イベント 温度 宛先タイプ CC 8アドレス分	
	0.0.0.0.0.0.0.0,	イベント 温度 宛先タイプ BCC 8アドレス分	
	0.0.0.0.0.0.0.0,	イベント 定時メール 宛先タイプ TO 8アドレス分	
	0.0.0.0.0.0.0.0,	イベント 定時メール 宛先タイプ CC 8アドレス分	
	0.0.0.0.0.0.0.0,	イベント 定時メール 宛先タイプ BCC 8アドレス分	
	0.0.0.0.0.0.0.0,	イベント ハートビート 宛先タイプ TO 8アドレス分	
	0.0.0.0.0.0.0.0,	イベント ハートビート 宛先タイプ CC 8アドレス分	
	0.0.0.0.0.0.0.0	イベント ハートビート 宛先タイプ BCC 8アドレス分	
mailCommandEnabled	0	メールコマンドの有効化	0:無効 1:有効
mailCommandAddrEnabled	1	<不使用>	<不使用>
mailRecvProtocol	1	メール受信プロトコル	1:POP3 2:IMAP
mailLogoutTime	10	<不使用>	<不使用>
mailCheckInterval	3	メールチェック間隔(分)	1~60
mailApopEnabled	0	APOPの有効化	0:無効 1:有効
mailSmtplibEnabled	0	SMTPLIBの有効化	0:無効 1:有効
mailSmtplibMask	7	SMTPLIBのMask	
mailImapAuthMask	6	IMAP AUTHのMask	
mailRetryCount	3	メールリトライ回数	1~99
mailRetryInterval	10	メールリトライ間隔(秒)	1~999
mailRecvPort	110	メール受信ポート	0~65535
mailSendPort	25	メール送信ポート	0~65535
mailExtraMsg	¥r¥n	通知メール ユーザー定義文字列	最大3パターンまで 全角21文字 半角40文字以内 (¥r¥nは改行コードの意味)
promptMode	2	TELNETプロンプトモード	0:無し 1:「>」の表示 2:「機器名>」の表示
modemEnabled	0	モデムの有効化	0:無効 1:有効
modemTimeout	10	モデムタイムアウト時間(分)	
logMode	0111 1111 1111 1111 1111 1111 1111 0100	ログ記録モード(31ビット)	0:無効 1:有効
logDisp	0111 1111 1111 1111 1111 1111 1111 1111	ログ表示モード(31ビット)	0:無効 1:有効
mailLogCount	0	メールで送信する更新されたログの数	0:無効 1~20:閾値
mailLogDisp	0111 1111 1111 1111 1111 1111 1111 1111	メールログ表示モード(31ビット)	0:無効 1:有効
ipAdNtpServer		NTPサーバーのIPアドレス	
ntpInterval	6	NTPサーバーへのアクセス間隔(×10分)	
msrpEnabled	0	状態通知の有効化	0:無効 1:有効
ipAdCenter		MSRP送信先IPアドレス	3箇所まで
centerPort	5000,5000,5000	MSRP送信先ポート番号	
terminalId	0	<不使用>	<不使用>
centerSendTimer	300	監視情報送信間隔(秒)	
centerChangeSendTimer	10	状態変化時の送信間隔(×100ミリ秒)	

centerChangeSendCount	3	状態変化時の送信回数	
ipAdTelnetT		TELNETからのTELNET中継先アドレス	
ipAdTelnetU		UTYからのTELNET中継アドレス	
remoteTelnetPortT	23	TELNETからのTELNET中継先ポート	
remoteTelnetPortU	23	UTYからのTELNET中継ポート	
remoteTelnetMyPort	5000	TELNET中継時の発信ポートベース番号	
discChar		中継中の通信切断キャラクタ	
debWakeupPhysAddr	,,,	WOL MACアドレス	"," 区切りで4箇所まで
debWakeupMaxCount	2	マジックパケット送信回数	
debWakeupInterval	15	マジックパケット送信間隔(秒)	
debWakeupPhysAddrV	,,,,,	仮想アウトレット WOL MACアドレス	"," 区切りで8箇所まで
ipAdMailRecvServer		メール受信サーバーアドレス	
ipAdMailSendServer		メール送信サーバーアドレス	
etherSpeed	2	接続速度	0:接続していない 1:10.0Mbps 2:100.0Mbps
pingPktSize	16	PINGパケットのデータ長	16~1472
resetCause		リセット原因表示	
recvErrorCount	0	PING監視 メールサーバへのアクセスエラー回数	0:表示のみ
ledBlinkEnabled	1	PILOT, OUTLET LEDの点滅の有効化	0:無効 1:有効
broadGroup	0	一斉電源制御の有効化	0:無効 1~8:グループ
broadPhysAddr		一斉電源制御側MACアドレス	
hbEnabled	0	ハートビートの有効化	0:無効 1:有効
hbIpAddr		ハートビートの対象IPアドレス	0は無視
hbPort	9100	ハートビートの待ち受けポート	
hbPcPort	9100	ハートビートの送信側ポート確認	
hbInterval	8	ハートビートのパケットを受ける間隔(秒)	1~99
hbRebootTime	30	ハートビートのリポート時間(秒)	1~99
hbTimeoutMax	3	ハートビートの動作を行うカウント	1~99
hbActionMax	3	ハートビートのリポート実行限度回数	1~99
hbAction	0,0,0,0	ハートビートのアウトレット毎の動作	0:無効 1:ON 2:ON追従 3:OFF 4:OFF追従 5:リポート
hbTimeoutCount	0	タイムアウトの累積回数(ReadOnly)	
hbActionCount	0,0,0,0	アウトレット毎の動作を実行した回数(ReadOnly)	
hbStat	0	ハートビート状態(ReadOnly)	0:待機中, 1:パケットを受信
hbCallingIpAddr		最後にパケットを受信したIPアドレス(ReadOnly)	
httpCommandReturn		ダイレクトWEBコマンド実行後の戻り用URL ("http://"を省いて記述)	
httpCommandNo	0	ダイレクトWEB実行後に表示されるページの設定	0:コマンド実行結果を表示 1:元の画面に戻る 2:httpCommandReturnで指定したアドレスにジャンプ
httpCommandSet	1,1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1,1	ダイレクトWEB実行後に表示されるページの表示制限設定	0:非表示 1:表示
httpScreen	1,1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1,1	ブラウザに表示される画面/項目の表示設定	0:非表示 1:表示
httpPageType	0	PC, スマートフォン等端末の種類にあわせて画面を切り替えるための設定	

httpPageStart	0	ログイン後に最初に表示されるページ	0:簡易情報表示 1:監視状態表示 2:イベントログ表示 3:電源制御
httpAuthMode	2	HTTP認証モード	0:None 1:Basic認証 2:Digest認証
realmName	RPC-M5CS	認証領域 (realm) 名	半角英数字20文字以内
nonceTime	180	nonceの有効時間 (秒)	30~30000
searchEnabled	1	RPCサーチソフトからの受信設定	0:無効, 1:有効
versionupEnabled	3	バージョンアップの有効化	0:無効 1:ローカル更新のみ 2:オンライン更新のみ 3:有効
revision	01	ファームウェアバージョンアップ機能コード	

*1文字列 Meikyo Remote Power Controller, RPC-M5CS Ver. 1.00D

*2文字列 Meikyo 100BASE-TX Driver

■ ログ一覧表

内 容	情 報	TELNETなどのLOG
ログ開始		Log Start
PING送信	outlet no. Ipaddr no.	ping
PING無応答	outlet no. Ipaddr no.	No Echo
死舌判定(NoAction)	アウトレットno.	No Action
死舌判定(REBOOT)	アウトレットno.	Outlet Reboot
死舌判定(アウトレットON)	アウトレットno.	Outlet On
死舌判定(アウトレットOFF)	アウトレットno.	Outlet Off
正常/回復中	アウトレットno.	Outlet Recovered
スケジュール(REBOOT)	アウトレットno.	Outlet Reboot by Schedule
スケジュール(アウトレットON)	アウトレットno.	Outlet On by Schedule
スケジュール(アウトレットOFF)	アウトレットno.	Outlet Off by Schedule
全アウトレットON	アウトレットALL ID (IDは接続者)	MPON
全アウトレットOFF	アウトレットALL ID (IDは接続者)	MPOF
全アウトレットREBOOT	アウトレットALL ID (IDは接続者)	MPOR
アウトレットON	アウトレットno.ID (IDは接続者)	PON
アウトレットOFF	アウトレットno.ID (IDは接続者)	POF
アウトレットREBOOT	アウトレットno.ID (IDは接続者)	POR
メールログイン要求	no.(no.は[通知先アドレス]番号)	-->Mail
●「メールログイン要求 0」と表示されている場合、[通知先アドレス]に登録されていないメールアドレスから送信があったことを意味します。(「メールログイン要求」の場合、メール制御コマンドは実行されなかったことになります。)		
メールログイン	no.(no.は[通知先アドレス]番号)	==>Mail
メールログアウト	no.(no.は[通知先アドレス]番号)	<==Mail
TELNET接続	IPaddr	-->Telnet
TELNETログインせず切断	IPaddr	<--Telnet
TELNETログイン	IPaddr	==>Telnet
TELNETログアウト	IPaddr	<==Telnet
Web接続		-->Web
Webログイン		==>Web
Webログアウト		<==Web
設定変更	[変数名] ID (IDは接続者)	variable set (xxxxx)
設定書込(WRITE)	ID (IDは接続者)	write to FROM
温度状態変化	正常, °C	Temperature Normal
温度状態変化	上限警報, °C	Temperature High Alarm
温度状態変化	下限注意, °C	Temperature Low Warning
温度状態変化	下限警報, °C	Temperature Low Alarm
NTPサーバー接続	hour minute second	NTP --- hh:mm:ss
NTPサーバー接続エラー		NTP Server Access Error
メールエラー		Mail Error

■制御コマンド一覧表

「TELNET」欄の「A」:Admin権限 「S」:Supervisor権限

「メール」:メール制御

「ダイレクト」:ダイレクトWEBコマンド A:Admin S:Supervisor C:Control I:Ident

制御コマンド	内 容	シリアル	TELNET	メール	ダレ外
MPON	全アウトレットの電源出力開始	A	A	○	AC
MPOF	全アウトレットの電源出力停止	A	A	○	AC
MPOR	全アウトレットの電源リブート	A	A	○	AC
PONn	指定されたアウトレットの電源出力開始 n=1~2	A	A	○	AC
POFn	指定されたアウトレットの電源出力停止 n=1~2	A	A	○	AC
PORn	指定されたアウトレットの電源リブート n=1~2	A	A	○	AC
PSRn	指定されたアウトレットの電源状態反転 n=1~2	A	A	○	AC
MPONV	全仮想アウトレットにマジックパケットを送信する。	AS	AS	○	AC
PONVn	(nは1~8) debWakeupInterval後にマジックパケットを送信する。	AS	AS	○	AC
OLSn OLS	死活監視状態の表示 n=1~2 nを省略すると全てのアウトレットを表示します。 コンマ区切りで表示。 Outlet No. アウトレット番号[1~2] Power 電源状態[0:Off 1: On] Judge 判定[1:正常 2:異常 3:回復中] Action Count Action実行回数 Last Ping1 アドレス1の最後の応答[1:正常 2:異常] NoEchoCount1 アドレス1の未応答回数 NoEchoTime1 アドレス1の応答時間(ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答] Last Ping2 アドレス2の最後の応答[1:正常 2:異常] NoEchoCount2 アドレス2の未応答回数 NoEchoTime2 アドレス2の応答時間(ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答] Last Ping3 アドレス3の最後の応答[1:正常 2:異常] NoEchoCount3 アドレス3の未応答回数 NoEchoTime3 アドレス3の応答時間(ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答] Last Ping4 アドレス4の最後の応答[1:正常 2:異常] NoEchoCount4 アドレス4の未応答回数 NoEchoTime4 アドレス4の応答時間(ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]	AS	AS	○	ASCII

VER	バージョンの表示	AS	AS	○	ASCII
POS	全アウトレットの電源状態取得 応答:mmmm 左側からアウトレット1~2 m=0:OFF 1:ON	AS	AS	○	ASCII
XPOS	全アウトレットの電源状態詳細の取得 応答:ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX 左側からアウトレット1~2 A=0:OFF 1:ON B=0:OFF遅延中 1:ON遅延中 XXXX=Bのタイマ残り時間	AS	AS	○	ASCII
ID	(TELNET接続での)ユーザーIDの変更 ※入力を失敗すると変更されません。 1: Normal (Admin権限でのID名を変更します) 2: Supervisor(Supervisor権限でのID名を変更します)	AS	AS	×	×
PASS	(TELNET接続での)パスワードの変更 新しいパスワードを2回入力します。※入力を失敗すると変更されません。 1: Normal (Admin権限でのID名を変更します) 2: Supervisor(Supervisor権限でのID名を変更します)	AS	AS	×	×
TELNET	変数「ipAdTelnetT」のアドレス, 変数「remoteTelnetPortT」のポートにTELNETクライアントとして接続します。 discCharに設定した文字を入力すると切断終了します。 一度に受信するデータは, 概ね40Kバイト以下でご利用ください。	AS	AS	×	×
DATE	年月日設定 例)DATE yy/mm/dd yy:年 mm:月 dd:日	AS	AS	○	×
TIME	現在時刻設定(秒は省略可) 例)TIME hh:mm:ss hh:時 mm:分 ss:秒	AS	AS	○	×
PING	ICMPを4回送信します。 例)PING [IPアドレス]	AS	AS	×	×
IPCONFIG	LANの通信設定を表示します。 (例) Ip Address 192.168.10.1 Subnet Mask 255.255.255.0 Default Gateway 192.168.10.254 Ethernet Speed 100.0Mbps	AS	AS	○	×
CPURESET	CPUをリセットします。 コマンドを実行しても電源状態は変化しません。	AS	AS	×	×
PROMPT=n	0:(プロンプト表示無し) 1:(「 > 」のプロンプト表示) 2:(「 機器名 > 」のプロンプト表示) *変数「promptMode」により接続直後のモードが決まります。	AS	AS	×	×
EXIT	回線切断 最初の文字がE, e, Q, qの場合はEXITと認識します。	AS	AS	○	×

TEMP	現在の温度を表示します。 (温度センサー「有効」のとき)	AS	AS	○	ASCII
TOSn TOS	温度監視の状態 5つの数字(①, ②, ③, ④, ⑤)が表示されます。 nを省略すると全てのアウトレットを表示します。 ①[アウトレット番号] ②[アウトレット状態(0:OFF, 1:ON)] ③[温度監視動作設定(0:無動作, 1:上限警報ON, 2:下限警報ON, 3:上限警報OFF, 4:下限警報OFF)] ④[温度監視状態(0:正常, 1:上限注意超過, 2:上限警報超過, 3:下限注意超過, 4:下限警報超過)] ⑤[温度監視動作状態(0:無動作, 1:上限動作, 2:下限動作)]	AS	AS	○	ASCII
TSP	以下の変数の内容を一括で表示します。 tempEnabled tempTestMode tempSimMode tempLowerA tempLowerW tempLowerH tempLowerOff tempUpperA tempUpperW tempUpperH tempUpperOff	AS	AS	○	ASCII

■仕様一覧表

通信仕様	LAN通信仕様	ARP, TCP/IP, UDP/IP, ICMP, POP3, IMAP, BOOTP, DHCP, TELNET, SMTP, APOP, NTP, HTTP, SNMP, NTTCP	
	LAN制御方法	SNMPマネージャー, TELNET	
		WEB E-mail	
機能	電源制御/管理	電源ON	
		電源OFF	
		電源リブート	
		電源状態取得	
		グループ制御	
	スケジュール機能	週間スケジュール機能(20個)	
		NTPによる時刻同期機能	
		スケジュールON/OFF機能	
	状態監視	ICMP送信	
		通報機能:SNMPトラップ, UDPパケット	
Mai通知			
温度監視(要オプション)			
ハートビート			
WOL対応機能	あり:マジックパケット送信		
シャットダウン機能	スクリプト通信(TELNET)		
ハード仕様	インターフェース	10Base-T/100Base-TX 1 (RJ45) (IEEE802.3に準拠)	
		COM (D-sub9ピンオス)	
		温度センサ (RJ11), (要オプション)	
	定格	最大制御出力	AC100V 15A (1500W)
		最大消費電力	5.2 W
		入力電源電圧	AC100V ±10% (50/60Hz)
	使用環境	温度	0~40℃
		湿度	20~85%(ただし結露なきこと)
外形寸法 (脚ゴム除く)	220(W) x42.6(H) x165(D) mm		
重量	約1.6kg		
規格	特定電気用品認証品(電気用品安全法), RoHS指令準拠		

問い合わせ先

明京電機株式会社

〒114-0012 東京都北区田端新町1-1-14

東京フェライトビル4F

TEL 03-3810-5580 FAX 03-3810-5546

ホームページアドレス

<https://www.meikyo.co.jp/>

ご注意

- (1)本書および製品の内容の一部または全部を無断で複写複製することは禁じます。
- (2)本書および製品の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3)本書および製品の内容については、万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4)本製品を運用した結果の影響については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5)本製品がお客様により不当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、または弊社および弊社指定のもの以外の第三者により修理・変更されたこと等に起因して生じた障害などにつきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6)弊社指定以外のオプションを装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

WATCH BOOT light RPC-M5CS

取扱説明書 2020年 8月 第1.2c版

著作権所有 明京電機株式会社

※「Watch Boot」は明京電機株式の商標です。登録番号 5000750号（平成18年11月2日登録）